

油津の歴史文化遺産を活用したまちづくり計画

令和6年3月 日南市



－ 目 次 －

第1章 計画策定の背景と目的.....	1
(1) 計画策定の背景と目的	1
(2) 計画策定までの経過.....	2
第2章 油津地区の概要と課題.....	4
(1) 油津地区の概要.....	4
(2) 課題の分析・抽出.....	17
(3) 油津地区の課題の整理	20
第3章 目標と方向性	21
(1) 目標とコンセプトの設定	21
(2) 柱となる4つの事業展開	22
(3) 目標値の設定.....	23
第4章 事業内容	24
(1) 各事業の内容.....	30
(2) 周遊促進の目指す姿.....	41
第5章 計画の推進	51
(1) 計画の推進体制.....	51
(2) 計画の進行管理.....	52
資料編.....	資料-1
・油津の登録有形文化財	資料-1

第Ⅰ章 計画策定の背景と目的

（Ⅰ）計画策定の背景と目的

現在、日本においては人口減少が深刻化しており、本市においても、今後さらなる人口減少が予測されています。人口減少は、地域経済の縮小や地域産業の担い手不足等を引き起こすことが懸念され、本市においても人口減少対策が喫緊の課題となっています。

このような状況の中、令和3年（2021年）12月に、故戸村サチ子氏より、油津地区の歴史や文化の継承、堀川運河周辺の賑わい創出のために役立ててほしいとの意向の寄附を受けました。

堀川運河周辺は、戦前にマグロと餌肥杉で大いに栄えた地区であり、堀川橋や油津赤レンガ館などの国の登録有形文化財をはじめ、その時期の建物等の多くの歴史文化遺産が存在しています。

市では、寄附金を有効活用するため、堀川運河周辺の歴史文化遺産の伝承及び賑わい創出を目的とした「日南市油津文化遺産振興戸村基金」（以下、「基金」という）を、令和4年（2022年）3月に創設し、事業を進めることになりました。

一方では、令和5年（2023年）3月に、東九州自動車道「清武南IC～日南北郷IC」間が開通したことにより、日南市から北九州市までが南北に一本の高速道路で結ばれ、日南市と宮崎市間の移動時間が大幅に短縮されました。また、油津港においては新型コロナウイルス感染症拡大の影響により減少していた大型クルーズ船寄港の回復が見込まれ、インバウンドの増加が期待されています。

基金の趣旨や東九州自動車道の開通、大型クルーズ船寄港などの新たな需要を踏まえ、今回、本市では、油津地区の歴史文化遺産を地域振興・観光等に有効活用することにより、歴史文化の伝承及び地域の賑わい創出を図り、本市の課題である人口減少対策を講じることを目的に、「油津の歴史文化遺産を活用したまちづくり計画（以下、「計画」という）」を策定することとしました。

(2) 計画策定までの経過

計画策定にあたっては、市民ワークショップやパブリックコメントを実施し、広く市民意見の聴取を行いました。

1) ワークショップ

計画の策定にあたり、油津地区の実情を把握している地域住民等との対話を通して、市民の意見聴取を行うことを目的に、ワークショップを開催しました。

意見の概要は第2章（P18）で示します。

① 第1回ワークショップ

表1-1 第1回ワークショップ概要

開催日	令和5年5月9日（火）	
場所	日南市テクノセンター	
参加者	24名（8団体）	
検討内容	①油津の「後世に残したい資源・資産、風景など」について ②油津の資源・資産等を活用するうえでの「課題・問題点」について ③油津の「将来像」について	
当日の様子		

② 第2回ワークショップ

表1-2 第2回ワークショップ概要

開催日	令和5年6月14日（水）
場所	日南市テクノセンター
参加者	18名（9団体）
検討内容	①資源・資産等の活用方法について ②観光資源を繋ぐ方法について ③更に必要な機能について
当日の様子	 

③ 第3回ワークショップ

表1-3 第3回ワークショップ概要

開催日	令和6年1月31日（水）
場所	日南市テクノセンター
参加者	13名（6団体）
検討内容	①油津の歴史文化遺産を活用したまちづくり計画（案）の概要説明 ②意見交換、質疑応答
当日の様子	 

2) パブリックコメント

広く市民意見を聴取することで、より良い計画を策定することを目的に、パブリックコメントを実施しました。

表1-4 パブリックコメント概要

実施期間	令和6年3月5日（火）～令和6年3月19日（火）
意見収集方法	専用の意見書に意見を記載の上、郵送、FAX、電子メールで収集
意見数等	意見件数 22件、提出者数 2名

第2章 油津地区の概要と課題

(1) 油津地区の概要

1) 位置・地勢

油津地区は、日向灘に面した港町であり、広渡川河口に開けた平野部が広がっています。海浜部には埠頭や漁業関連施設が立地しており、港を見下ろす山以外は大部分が宅地となっています。

また、油津地区は、本市の中でも主要な観光資源であり全国的に知名度の高い鵜戸神宮が位置する鵜戸、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている飫肥城下町を含む飫肥と三角形を成す重要な位置にあります。



図2-1 油津地区位置図

2) 沿革

江戸時代の油津地区は、木材資源に恵まれた飫肥藩の木材積出の港として油津港が活用され、大消費地である大阪への木材や海山産物の国内海運を盛んにするとともに、日向灘を往来する大阪航路も定着し、藩財政を潤す地域でした。また、この航路を通じて播磨・堺などの先進文化圏との交流も深まり、油津に堀川文化と呼ぶべき個性あふれる文化が生まれ、漁業と商業で栄えることになる港町油津の基礎が形成されました。

明治15年(1882年)に、大阪商船が大阪～鹿児島間に航路を開設し、宮崎県では油津港のみに寄港するようになり、明治22年(1889年)には、これまで属していた平野村から油津地区が独立して町制を施行しました。

明治41年(1908年)には、油津の有力者、渡邊与七により大阪商船の荷客取引店が引き継がれ、飫肥杉の取引をはじめとする商用で西日本各地から船便を利用する人々が油津に集まりました。これらの人々は、幾日も毎にしかない船便を待つために宿泊を余儀なくされ、そのため堀川橋から堀川沿いに旅館が並ぶとともに、近くには警察署もでき、雑貨商や食堂、銀行や呉服店、唐津屋などの商業地帯が自然発生的に展開しました。

大正2年(1913年)には、宮崎県で初めての軽便鉄道が飫肥～油津間に開通し、大正7年(1918年)には、農商務省から指定を受けた国内6箇所の漁港整備のうち、油津港が九州で唯一指定を受けて整備され、大正10年(1921年)には、県内初の上水道(油津町営上水道)が敷設されるなど、市内でも先進的に社会基盤整備が進みました。

昭和4年(1929年)からは、マグロの水揚げが急増し、「東洋一のマグロ基地」と呼ばれるようになり、飫肥杉とマグロで空前の活況を呈して、市街地が急速に拡大し、三間通りや岩崎商店街も形成されました。戦後、油津地区は、戦災復興事業としていち早く土地区画整理事業が始められるとともに、都市計画道路の整備も進められるなど、市内で最も早く都市計画による市街地が整備されました。



昭和10年頃の油津港（マグロの水揚げ）

また、昭和22年(1947年)に日南商工会議所が設立し、昭和25年(1950年)の市制施行(3町1村合併)を挟んで、日南郵便局、宮崎県立日南病院、油津公民館といった公共公益施設が整備されました。更に、昭和37年(1962年)に天福球場が整備されると、翌38年(1963年)には、広島東洋カープのキャンプに利用されるようになりました。

商業に関しては、昭和 36 年（1961 年）に港百貨店（現 ㈱日南山形屋）が立地すると、昭和 40 年（1965 年）には、当時としては珍しい近代的な商店街アーケードの建設や道路舗装等の整備も進められ、寿屋、マルショクが立地するなど、商店・スーパー等の商業施設の集積が進みました。昭和 58 年（1983 年）における 3 つの商店街（銀天街、五番街、岩崎 1 丁目商店街）の市内における販売シェア（寿屋、日南山形屋などの大型店を除く）は、21.1%を占め、県南地域経済や本市商業の中心地として賑わいました。

平成 7 年（1995 年）には、中心市街地内にサピアが開店し、テナントとして寿屋と地元商店が入店しました。また、商店街もサピアの出店に併せる形で、アーケードのリニューアルを行いました。

しかし、平成 10 年（1998 年）に商店街の核店舗であったマルショクが退店し、平成 14 年（2002 年）にサピアの核店舗であった寿屋が閉店すると、次々と商店街の店舗もシャッターを閉めていきました。これらの背景には、核店舗の撤退もさることながら、モータリゼーションの進展により、平成 5 年（1993 年）に開通した吾田地区から飢肥地区に通じる「市道楠原平野線」などの幹線道路沿いに大型家電店、ドラッグストア、衣料品店などのロードサイド型店舗が立地するとともに、病院・診療所や住宅が急速に建ち始めたことや、近隣都市への大型ショッピングセンターの立地もあり、消費が地区外へ流出し続けていることも挙げられます。

このような都市形成の背景の中で、油津地区繁栄の象徴である堀川運河は、昭和 40 年（1965 年）代になると家庭汚水で汚染され、昭和 51 年（1976 年）に策定された油津港湾計画で埋め立てが計画され、一部が埋め立てられて緑地公園とされました。

しかし、昭和 59 年（1984 年）に下水終末処理場が完成し、下水道の普及により水質の改善が進むと、市民の間で堀川運河の歴史的価値が再認識されて保存運動が展開されました。その結果、平成 6 年（1994 年）に油津港湾計画が改定され、堀川運河保全に向けて方針転換が図られました。

また、平成 10 年（1998 年）には、堀川運河周辺の歴史的資産が国の登録有形文化財に指定され、堀川運河の保全整備と併せて、本市の歴史を物語る新しい観光地としてのポテンシャルを有するようになっていきます。

観光ポテンシャルが高い一方で、人口減少や高齢化、歩行者通行量の減少や商店街における空き店舗の増加など、地域活力の低下が著しい状況が続きました。これを受け、平成 14 年（2002 年）には日南市まちづくり市民協議会、平成 15 年（2003 年）には油津地区・都市デザイン会議が設立され、堀川運河を中心としたまちづくりが進められてきました。平成 24 年（2012 年）には、中心市街地活性化事業基本計画が国の認定を受け、油津地区における商店街の再生や観光地の形成等に向けた取組が本格的に動き始めました。本事業は平成 28 年度（2016 年度）をもって終了しましたが、商店街における賑わいや雇用の創出、複合機能ビル等の整備による環境・景観面の改善等に繋がられています。

3) 社会環境

① 人口・世帯数

油津地区の人口及び世帯数は、令和5年（2023年）4月現在で4,482人、2,315世帯となっており、いずれも減少傾向にあります。

更に、人口は今後も減少し、約40年後には半数以下となることが予測されています。

（人・世帯）

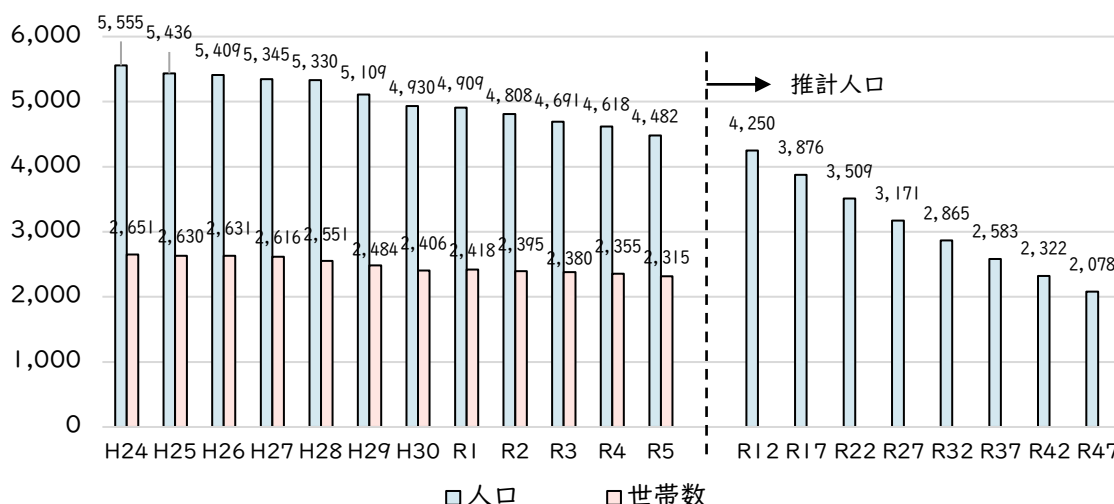


図2-2 油津地区の人口・世帯数

出典：日南市住民基本台帳、推計人口は日南市人口ビジョン（R2.3）より作成

年代別人口構成をみると、油津地区における令和2年（2020年）の高齢化率は39.0%となっており、高齢化が進行しています。

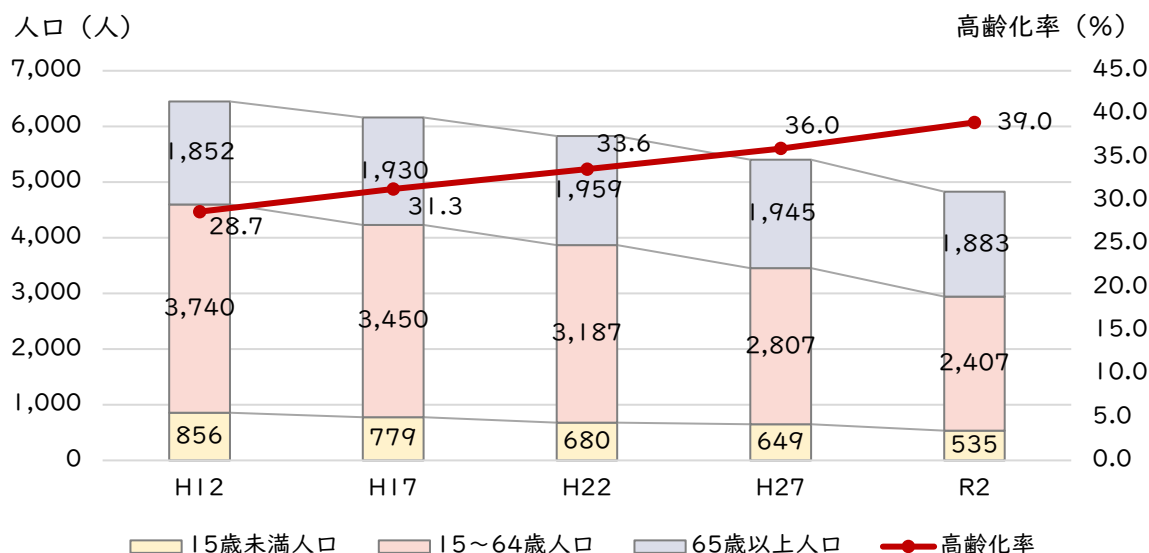


図2-3 油津地区の年代別人口

出典：国勢調査結果より作成

② 産業

油津地区の産業別就業者数は、令和2年（2020年）時点で第1次産業が99人（4.4%）、第2次産業が433人（19.3%）、第3次産業が1,704人（75.8%）となっており、人口減少に伴いいずれの産業の就業者数も減少傾向にあります。

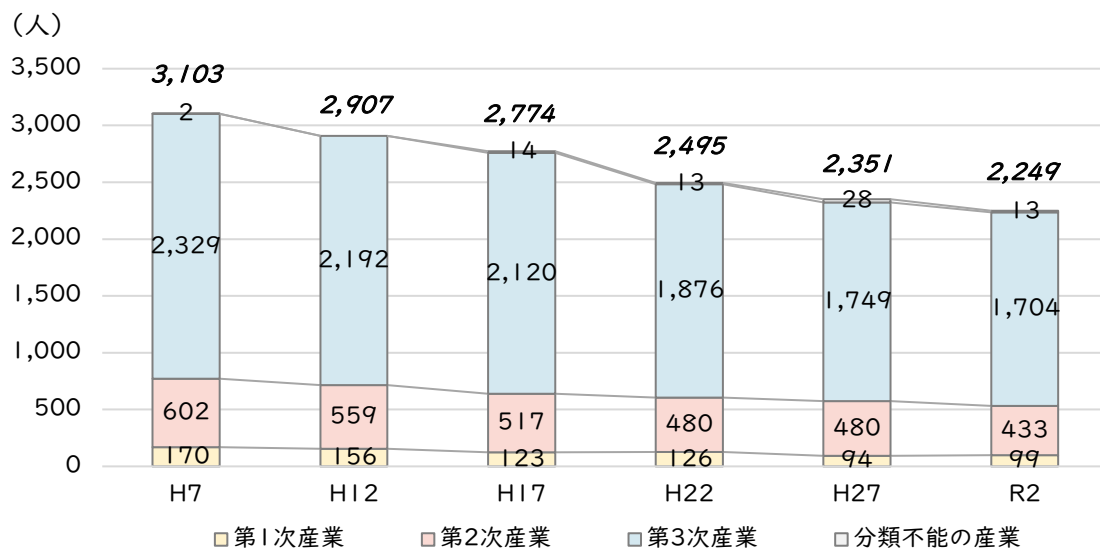


図2-4 油津地区の産業別就業者数

出典：国勢調査結果より作成

③ 交通

【道路】

本市では、国道220号、国道222号、国道448号及び主要地方道日南高岡線等を中心とした道路が市街地を連絡する構造となっています。令和5年（2023年）3月には東九州自動車道「清武南IC-日南北郷IC」間が開通し、日南市中心部に近接する日南東郷ICから北九州市までが南北に一本の高速道路で結ばれました。



図2-5 東九州自動車道 令和5年開通区間

出典：宮崎河川国道事務所記者発表資料（R5.2.3）

【鉄道】

本市では JR 日南線が運行しており、油津地区には油津駅が位置しています。油津駅から青島・南宮崎・宮崎方面へは 1 日あたり 15 本、志布志方面へは 11 本が運行しており、油津駅から宮崎駅までの所要時間は 90 分程度となっています。



図 2-6 日南市鉄道路線図

【バス】

市内には宮崎交通の路線バスが運行しており、油津駅前に位置する油津待合所から宮崎駅や飫肥、南郷方面等へ繋がっています。

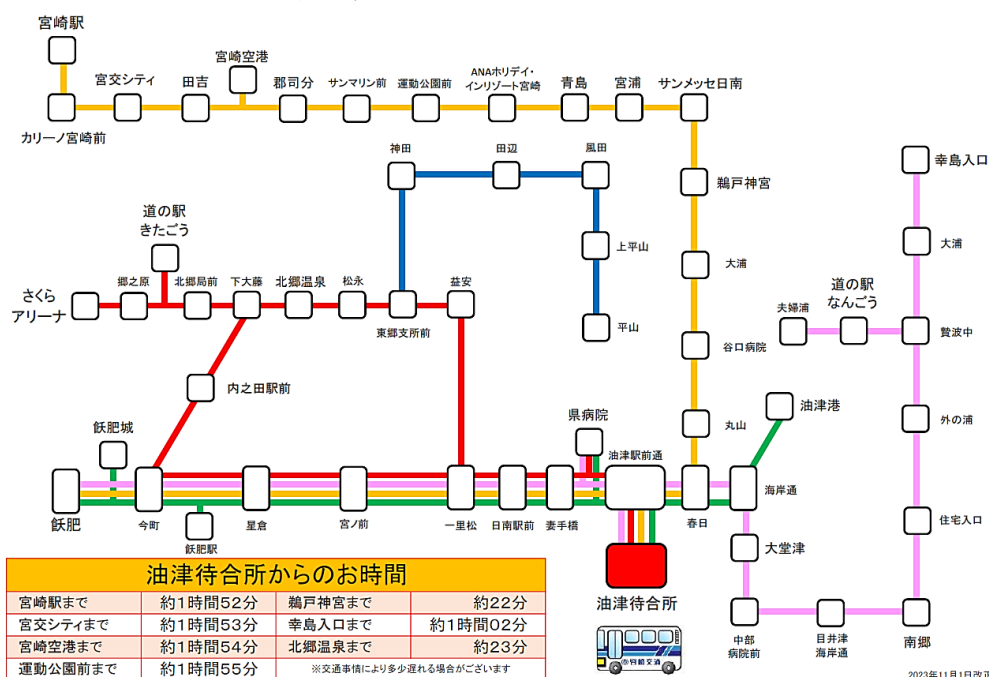


図 2-7 日南市バス路線図

出典：日南市内バス路線図_宮崎交通

④ 観光

本市の観光に関する最上位計画である、「日南市観光振興計画（H27.3）」において、油津地区は鶴戸・日南海岸、飢肥と並び、“日南市観光ゴールデンルート”を構成する「コアゾーン」に設定されています。



図 2-8 日南市観光ゾーニング図

出典：日南市観光振興計画（H27.3）

本市の国内観光客数は、概ね年間 190 万人前後で推移してきています。近年は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて減少しています。

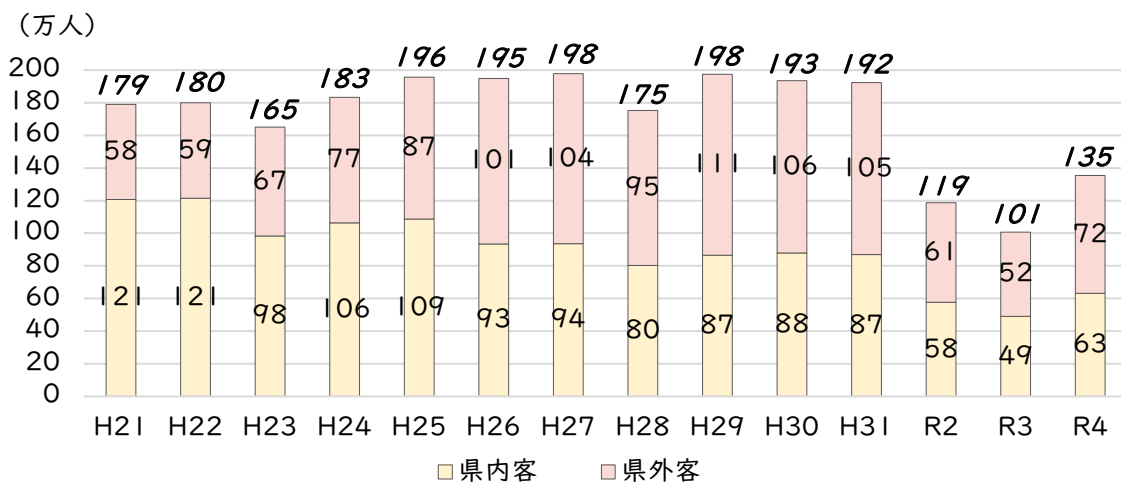


図 2-9 日南市の国内観光客数の推移

出典：観光・スポーツ課資料より作成

油津港へのクルーズ船寄港回数は、平成 25 年（2013 年）以降大幅に増加していましたが、近年は感染症拡大の影響等により減少しています。

令和 5 年（2023 年）は 15 隻寄港しており、寄港回数の回復が期待されます。

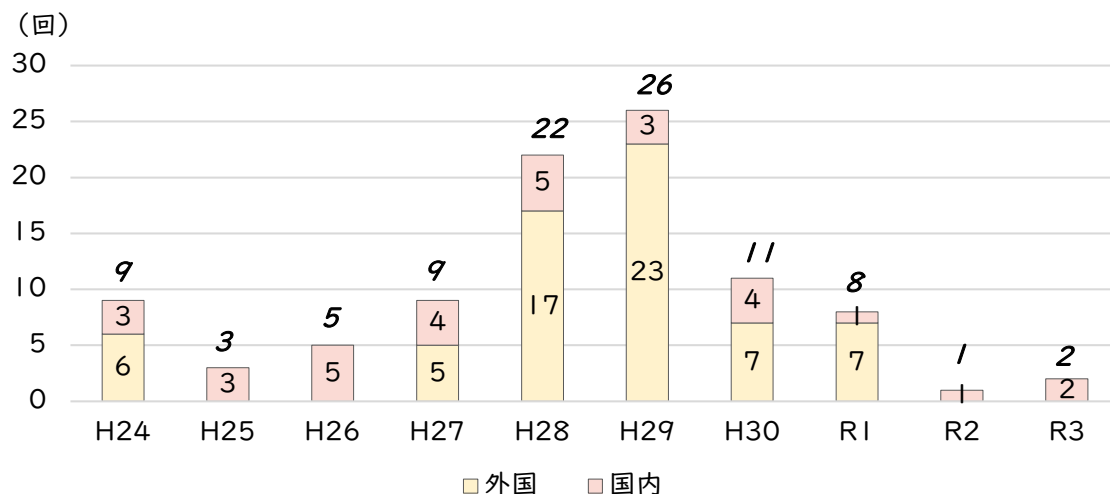


図 2-10 油津港クルーズ船寄港回数の推移

※外国・国内の別はクルーズ船運航会社の本部が海外にあるか日本国内にあるかの別
出典：宮崎県観光入込客統計調査結果より作成

油津港に寄港したクルーズ船乗客の下船後の観光は、中国人は基本的にバスツアーを利用しており、日本人、欧米人もほぼ半数がバスツアーを利用しています。日本人や欧米人でバスツアーを利用していない人は、タクシーや路線バスを利用し、飫肥城下町、鵜戸神宮、油津商店街等を訪問しています。

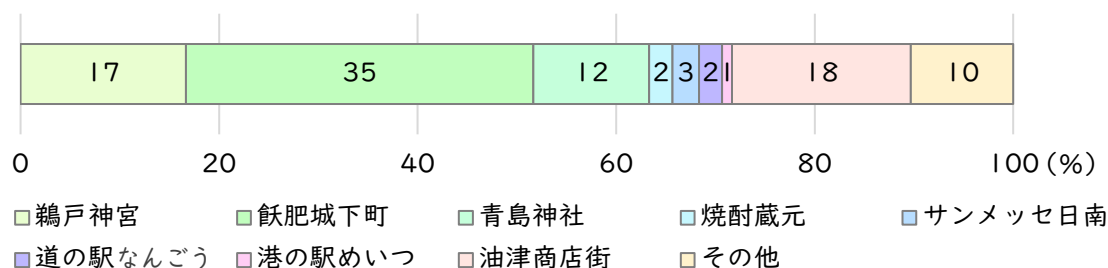


図 2-11 バスツアーを利用していない人の訪問地

出典：日南市の油津港に寄港するクルーズ船乗客等及び地元商店等のニーズ調査並びに宮崎空港における旅行者の動向調査事業報告書_国土交通省九州運輸局（H30.3）より作成

令和2年（2020年）における本市の主な観光施設の観光客数は、「鵜戸神宮」が約72万人で最多となっており、次いで「港の駅 めいつ」、「道の駅 酒谷」の順に多くなっています。



図2-12 主な観光施設の観光客数（令和2年）

※酒谷キャンプ場はコミュニティセンターの利用者数を含む。蜂の巣公園はコテージの利用者数を含む。
出典：観光・スポーツ課資料より作成

本市への日帰り観光客の滞在時間は、平均 3.4 時間となっており、県内客（平均 3.7 時間）の方が県外客（平均 3.0 時間）よりも長くなっています。

また、市内での消費額は、1 人あたり（日帰り全体）1,600 円程度であり、そのうち半分を昼食代が占めています。なお、消費額も県内客が多くなっています。

参考として都市規模や観光資源等が似ている大分県臼杵市※と比較すると、平均滞在時間は日南市の方が短く、1 人あたりの消費額は、日南市の方が 400 円程度少なくなっています。

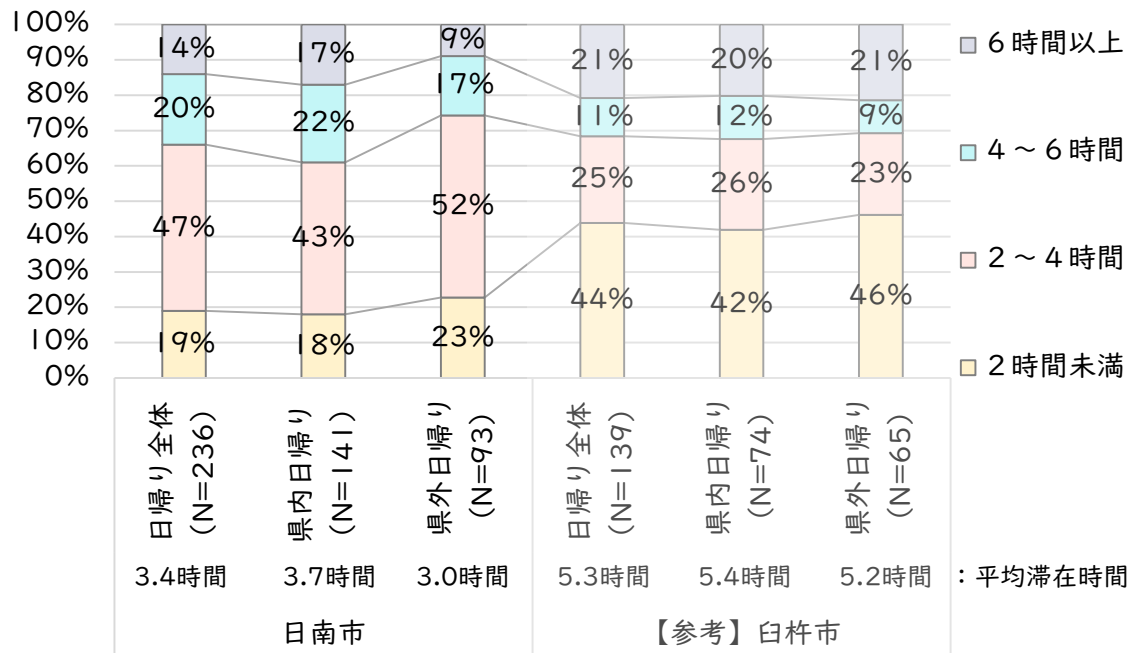


図 2-13 日南市内での滞在時間

出典：日南市観光振興計画（平成 26 年調査結果）、第 3 次臼杵市観光振興戦略（平成 28 年調査結果）より作成

表 2-1 市内での消費単価

(円)	日南市					【参考】 臼杵市
	昼食	土産	施設入場・体験	その他	計	計
1 人あたり単価 (日帰り全体)	813	262	324	224	1,623	2,091
1 人あたり単価 (県内日帰り)	930	256	470	251	1,907	-
1 人あたり単価 (県外日帰り)	683	290	134	102	1,209	-

出典：日南市観光振興計画（平成 26 年調査結果）、第 3 次臼杵市観光振興戦略（平成 28 年調査結果）より作成

※都市規模に近い城下町を主とした観光地の中で、公表データのある臼杵市を比較対象としています。

	人口 (R5)	世帯数 (R5)	面積	県庁所在地からの距離
日南市	4.8 万人	2.1 万世帯	535 km ²	約 35km
臼杵市	3.4 万人	1.5 万世帯	291 km ²	約 22km

⑤ 歴史文化遺産

油津地区には、国登録有形文化財が14箇所（21件）あります。各文化財等の詳細は資料編に示します。



図 2-14 登録有形文化財位置図

4) これまでの取組

油津地区では、市民によるまちづくり活動をはじめ、歴史文化遺産を守るための様々な取組が行われてきました。以下に主な取組を示します。

① 「堀川運河を考える会」結成：昭和 63 年（1988 年）

汚染が進んだ堀川運河の埋立決定を受け、それを惜しむ市民が「堀川運河を考える会」を結成し、保存を呼びかけました。結果として多くの市民が堀川運河の保存を支持し、埋立決定から一転して県事業による整備（歴史的港湾環境創造事業）が開始されました。

② 「油津 -海と光と風と-＜NIC21 編＞」出版：平成 5 年（1993 年）

市民の手により「油津 -海と光と風と-」が出版されました。油津の歴史や文化を知ることができる本で、最終章では油津の将来像を描いています。これに続き、平成 22 年（2010 年）には、油津地区の古き良き地名やその地名にまつわるエピソードなどをとりまとめた「油津 其の二 海と光と風の地名録」が発行されています。



③ 「蘇れ油津 港と運河のまちづくり計画」策定：平成 7 年（1995 年）

市民有志の「油津みなと街づくり委員会」により、「蘇れ油津 港と運河のまちづくり計画」が策定されました。油津赤レンガ館を中心としたまちづくり計画であり、後の赤レンガ館の買い取り保存に繋がっています。



④ 「赤レンガ館等」買取保存：平成 9 年（1997 年）

取り壊しの危機に瀕した「赤レンガ館等」を残すため、市民有志 31 名で「合名会社 油津赤レンガ館」を設立し、1 人 100 万円ずつ出し合って買い取り保存を行いました。返済の終わった平成 16 年（2004 年）には、まちづくりに役立てるためにと、土地建物全てを市に寄贈しています。

⑤ 「チョロ船」復元：平成 12 年（2000 年）

油津の繁栄期の漁業を支えた伝統的な木造帆船である「チョロ船」が昭和 30 年代になくなってしまったことを受け、これを惜しむ市民が寄付金を出し合って復元しました。

これまでに 3 艘復元しており、小学生の総合学習やイベントでの乗船体験や、定期運航実験を開始するなど、様々な取組を展開しています。



⑥ 「油津地区・都市デザイン会議」設置：平成 14 年（2002 年）

宮崎県が行う堀川運河の整備と併せて、市が周辺の道路整備等を行うことから、一体的なデザインや整備手法の検討を行うため、市民と行政、専門家が協働して「油津地区・都市デザイン会議」を設置しました。

⑦ 「堀川に屋根付き橋をかくっかい実行委員会」設立：平成 19 年（2007 年）

堀川運河整備のシンボルとして飫肥杉製の屋根付き橋が整備されることになったことを受け、市民による「堀川に屋根付き橋をかくっかい実行委員会」が結成されました。

市内小中学生がメッセージを部材に書き込むイベントや橋の愛称募集、完成祝賀会や、夢見橋・夢広場竣工イベントが盛大に行われました。



⑧ 「日南市中心市街地活性化協議会」発足：平成 21 年（2009 年）

中心市街地活性化事業基本計画の策定に取り組むとともに、関係団体が一体となって中心市街地活性化に取り組むために「日南市中心市街地活性化協議会」が発足しました。

最終的に、11 版目となる計画書が平成 24 年（2012 年）に国の認定を受けました。

⑨ 「油津まちづくり会議」設置：平成 24 年（2012 年）

油津地区のまちづくりを着実に、早く、効果的に推進するため、関係する組織・団体等が一堂に会して議論する場として「油津まちづくり会議」が設置されました。

事業推進のための行動計画として「油津まちづくり行動計画」を策定しました。

⑩ 「油津地域協議会」設立：平成 25 年（2013 年）

油津地区の住民が互いに協力・協働し、地域の課題解決を図るために自主的な事業や取組を行い、住みよい地域を構築することを目的に、「油津地域協議会」が設立されました。

まちあるきツアーやイルミネーションプロジェクト、スポーツイベントや清掃等、様々な活動が行われています。



(2) 課題の分析・抽出

1) 油津地区の概要から見えてくる課題

① 位置・地勢、沿革

油津地区は、本市の南東部に位置する港町です。飫肥杉の搬出やマグロの水揚げによって大いに栄えてきた地区であり、その時期の街並みや歴史的資産等が多く残されています。

油津地区の成り立ちを踏まえ、これらの歴史や文化を継承していく必要があります。

② 人口・世帯数、産業

油津地区では人口が減少しており、今後も更に減少することが予測されています。

また、人口の約4割が65歳以上であり、高齢化が進行しています。更に、人口減少や高齢化に伴って就業者数も減少しています。

地域コミュニティの活性化を図るため、人口減少下でもまちづくりの担い手を確保する必要があります。

③ 交通

東九州自動車道の延伸により、日南市中心部に近接する日南東郷ICから北九州市までが南北に一本の高速道路で結ばれました。また、油津駅を拠点として、鉄道やバスが運行しており、宮崎駅や飫肥、鶴戸までのアクセスが可能となっています。

交通利便性の向上により油津地区への来訪者が増加することが期待されるため、これらの来訪者の受入環境を整備する必要があります。

④ 観光

油津地区は、日南市観光振興計画において、鶴戸・日南海岸、飫肥と並び本市の観光のコアゾーンとして位置付けられています。観光客は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により減少していましたが、新型コロナウイルス感染症の5類移行や油津港へのクルーズ船寄港回数の回復、東九州自動車道の延伸に伴って、増加することが期待されます。クルーズ船の乗船客は、多くがバスツアーを利用しており、訪問先としては飫肥城下町が最多となっている状況です。

また、市全体として、観光滞在時間が短く、観光消費額が少ない状況となっており、人口減少に伴う就業者数の減少と相まって、地域経済の縮小に影響を及ぼす恐れがあります。

地域経済の活性化に向けて、油津地区へ観光客を呼び込むことにより、市全体で観光滞在時間及び観光消費額の増加を図る必要があります。

⑤ 歴史文化遺産とこれまでの取組

油津地区には国登録有形文化財が14箇所と豊富にあり、これまでに地域住民によって歴史文化遺産を守るための様々な取組が進められてきています。しかし、歴史文化遺産のなかには、老朽化・遊休化しているものもあります。

後世にわたって歴史文化を継承していくために、歴史文化遺産の保全と活用を一体となって進めていく必要があります。

2) 市民意見による課題

ワークショップで収集した市民意見等について、以下に主な内容を示します。

① 油津の後世に残したい資源・資産、風景など



② 油津の資源・資産等を活用するうえでの課題・問題点

分類	課題・問題点
観光の仕組み	行政の方針がない
	軸がない（シンボル軸、時代軸など）
	周遊の手段・スキーム、駐車場がない
資源の活用	いろいろな制限（法規・権利者等）
	飲食店がない
	コストがかかる
	資源が老朽化・遊休化している
人手不足	まちづくり団体等の高齢化・後継者不足
	若手の内需が低い
情報発信	広く発信ができていない
	文化財等そのものと価値が知られていない

③ 油津の将来像

分類	油津の将来像
観光の仕組みづくり・ブランド化	「魚の街」「歴史の香る街」のイメージ
	港町油津のブランディング（カンヌ）
	伝統的建造物群保存地区への選定
	名物をつくる
	堀川運河周辺の散策・回遊ルート整備
	観光ガイドの構築
環境整備	古民家のレストラン・飲み屋等への活用
	体験的な観光づくり
	Ｕターンで戻りやすい環境整備
	古民家を活用した若手起業家発掘
情報発信	油津散策マップの全面改訂
	油津の魅力についての情報発信
	油津が栄えていた時のバックボーンの提示

④ 資源・資産等の活用方法

分類	資源・資産等の活用方法
観光拠点	赤レンガ館に観光ガイドを常駐し、観光の拠点にする
	河野宗泰家裏庭を整備し、くつろげる休憩できる場所にする
飲食・宿泊機能	地のもの（しいの味噌汁、干物）を食べる場所
	まち全体をホテルとして使い、分散型ホテルとする
基盤整備	堀川運河を軸に動線をつくる
	夢広場にチョロ船発着場をつくる

⑤ 資源・資産等を繋ぐ方法

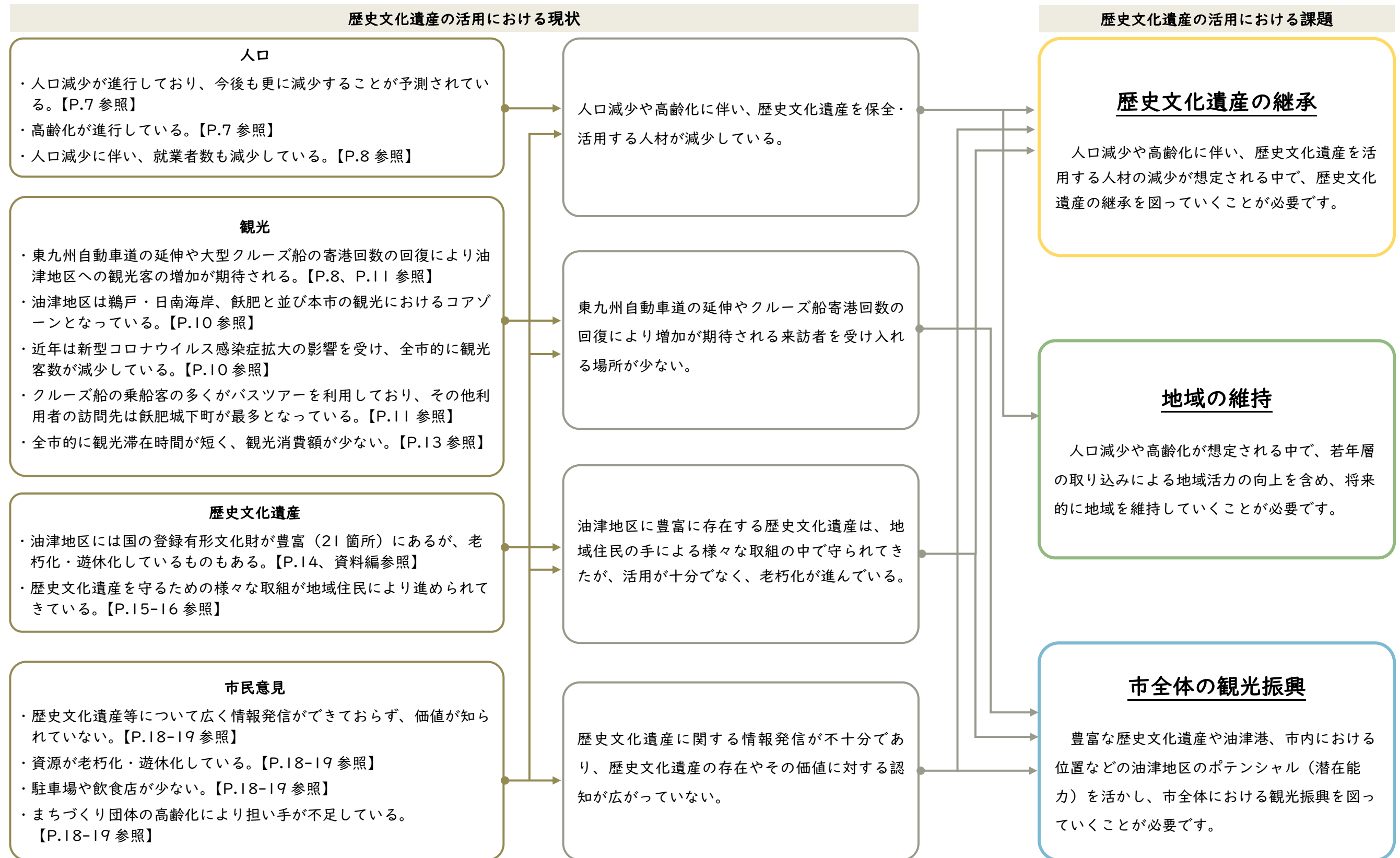
分類	資源・資産等を繋ぐ方法
移動手段	チョロ船を活用する（移動手段を兼ねて）
	セグウェイやゴルフカート等の簡易なモビリティ（移動手段）を導入する
ルート	観光コースを設定する
	堀川沿いをずっと歩けるようにする
案内	駅などの拠点に、見取り図で把握できる大きな概要マップを設置する
	有料観光ガイドの仕組みづくり

⑥ 更に必要な機能

更に必要な機能
駐車場（バスも停車できる規模）
多くの集客を見込める大型イベントの開催
市による情報発信の手段

(3) 油津地区の課題の整理

前段の整理を踏まえ、油津地区の歴史文化遺産の活用における主な現状と課題を、以下のとおり整理しました。



第3章 目標と方向性

前章で整理したとおり、「歴史文化遺産の継承」、「地域の維持」、「市全体の観光振興」の3つの課題が浮き彫りとなっています。

今回、歴史文化遺産を活用したまちづくりを進めるにあたり、本計画が担う目的を達成するための目標を明確にすることで、これらの課題に対応するための事業の方向性を定めます。

(1) 目標とコンセプトの設定

目標を明確にするにあたり、3つの課題である「歴史文化遺産の継承」、「地域の維持」、「市全体の観光振興」を解決するために必要なもの、更に、本市における喫緊の課題である人口減少対策や、基金の目的である賑わい創出の観点においては、「交流人口及び関係人口の増加」が共通しています。

このようなことから、目標を下記のとおり明確にします。

目標

歴史文化遺産の活用により魅力あるまちを形成し、新たな人の流れを取り込むことで、交流人口や関係人口の増加を目指す

また、交流人口や関係人口の増加を目指すために、様々な事業を効果的かつ効率的に展開するためには、事業の方向性であるコンセプト（概念）を定めることが大切です。

今回、歴史文化遺産の活用にあたっては、新たな空間づくりや魅力づくりに加え、多様な人々が集い、交流する「居心地が良く歩きたくなるまち」の創出が、交流人口や関係人口の増加に有効だと考えます。

このようなことから、コンセプトを下記とおり設定します。

コンセプト

**堀川運河周辺の歴史・文化を感じ、
居心地のよい歩きたくなるまち**

(2) 柱となる4つの事業展開

目標の明確化やコンセプトの設定により、どのような事業を展開するのか整理が必要です。事業展開の柱については、3つの課題の解決に必要な事項から抽出します。

油津地区においては、地域の風景の一部を構成してきた建築物等の歴史的資産が存在し、これらを活用することで、まちづくりにおける深みと物語性が増していきます。

また、人口減少に伴い、空き家等が多く発生していますが、これらに適切に手を加えて未永く活用していくことは、既存ストックの有効活用及び賑わい創出の点から有効です。

このような状況を踏まえ、「観光資源の整備」、「周遊促進」、「情報発信」、「人材育成」の4つを軸に事業を展開していきます。

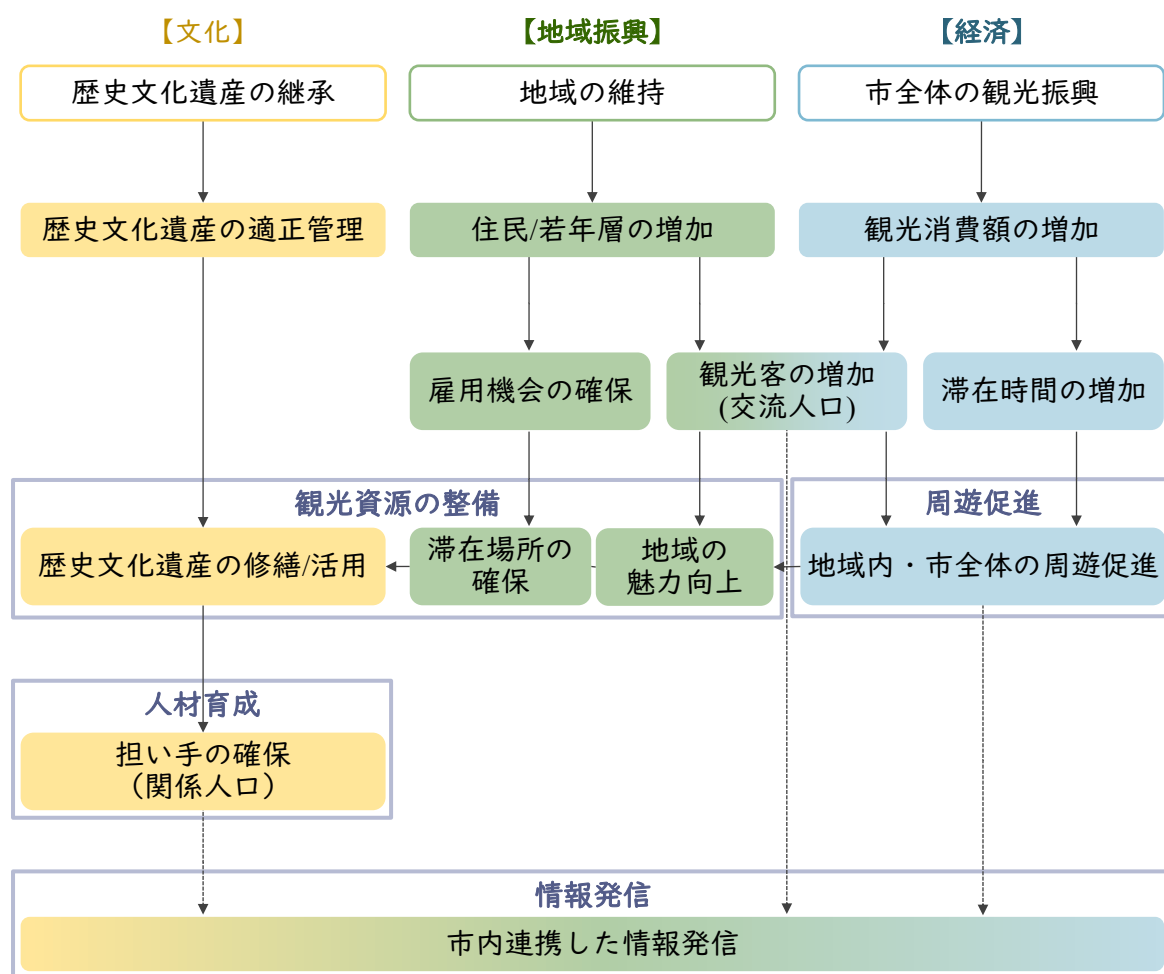


図3-1 歴史文化遺産を活用したまちづくりにおける課題解決に向けた事業展開

(3) 目標値の設定

事業終了時に目標の達成状況を明確にするため、定量化する指標である「目標値」の設定を行います。

目標値の設定をすることで、事業進捗の成果に対するPDCAの検証に加え、事業計画の追加・修正等の参考指標として扱うことが可能となります。

目標値の設定については、柱となる4つの事業展開である「観光資源の整備」、「周遊促進」、「情報発信」、「人材育成」との整合性等を考慮し、次のとおりとします。

表3-1 目標値等

目標項目	目標値1 地域資源を活用した 観光地の形成	目標値2 堀川運河周辺の 通行量	目標値3 市民主体イベントの 参加者数
概 要	新たな人の流れを取り込むため、歴史・文化遺産等の活用によりエリアの価値を向上させ、魅力的な観光地を形成する。 その成果を市民アンケートで検証する。	ガイダンスセンターでの情報発信や回遊性を向上させる仕掛けづくりにより、まちなかの歩行者数を増やす。 歩きながら楽しめるまちになることで、滞在時間が延び、観光消費額の増が見込まれる。	地域住民主体のイベント実施や行政と連携した賑わいを創出することで、地域活力の向上や地域コミュニティの機能強化が図られ、地域の歴史・文化の継承にも寄与する。
事業との関連性	「観光資源の整備」 「情報発信」	「周遊促進」 「情報発信」	「人材育成」
計画前数値 (R5年度)	満足・やや満足 19.5%	700人/日	1,050人
目標数値 (R10年度)	満足・やや満足 40.0%	1,000人/日	2,000人
備 考		日の定義は午前9時から午後5時	

第4章 事業内容

第3章で示した、柱となる4つの事業展開を踏まえ、具体的に進めていく事業の内容を整理しました。

なお、事業の概要は下表に示すとおりです。

表4-1 事業概要

事業計画	令和6年度（2024年度）～令和10年度（2028年度）の5年計画
総事業費	当初計画は約15億円の見込み
財 源	日南市油津文化遺産振興戸村基金をはじめ、国庫補助等の有利な財源を活用

① 観光資源の整備

歴史文化遺産や既存施設を活用し、観光案内機能や休憩機能等を導入するなど、観光客の誘致に向けた観光資源の整備を行います。

② 周遊促進

堀川運河を軸とした周遊ルートの整備・周知や、水辺を活用した体験メニューの創設、案内サインの整備や観光PR等により、油津地区及び市内全域における周遊を促進します。

③ 情報発信

地域における歴史や文化等に関する資料展示や情報発信を行い、豊富な登録有形文化財等の歴史・背景を踏まえた学習の機会を創出します。

④ 人材育成

市民自らが地域活性化について考える機運を高めるとともに、油津地区のまちづくりに関わる人材育成を行います。

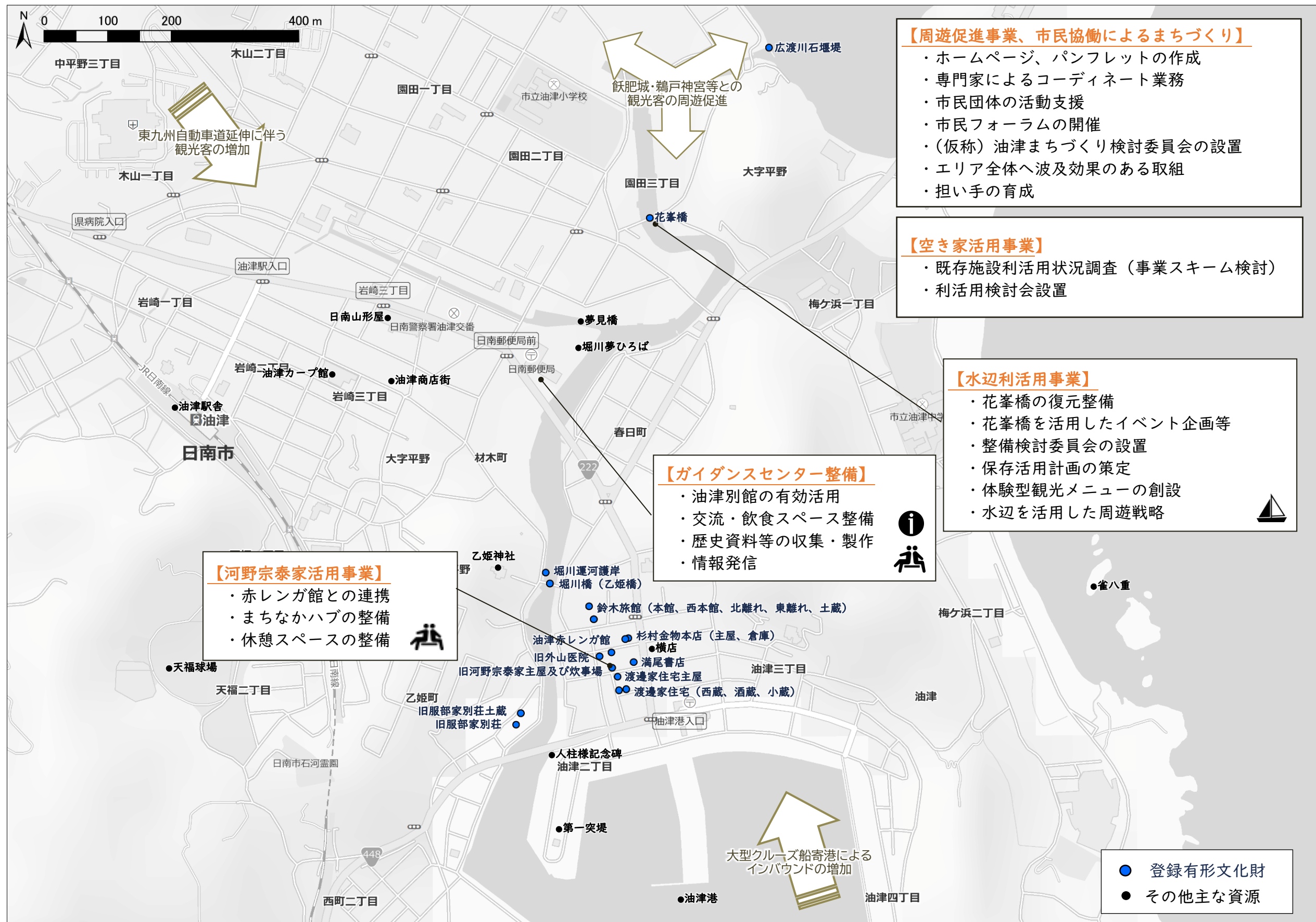


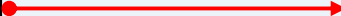
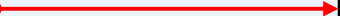
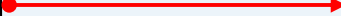
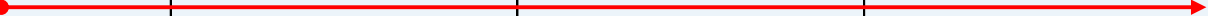
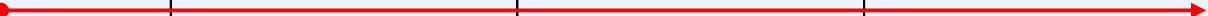
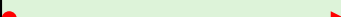
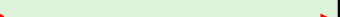
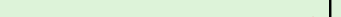
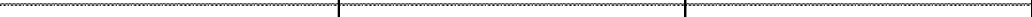
図 4-1 全体構想図

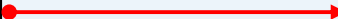
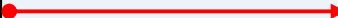
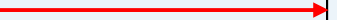
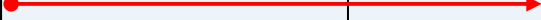
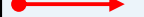
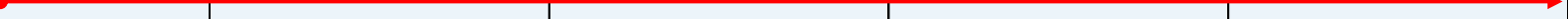
表4-2 事業内容一覧

事業名	具体的取組	事業の方針	概要	柱となる4つの事業展開				実施時期		
				観光資源 の整備	周遊促進	情報発信	人材育成	初期 (R6-7)	中期 (R8-9)	後期 (R10-)
ガイダンスセンター (資料館) 整備事業	ガイダンスセンター 整備事業	既存の市役所油津別館をガイ ダンスセンターとして整備 し、歴史文化の伝承や地域の 特産品等の情報を発信する拠 点とし、「まちの周遊」及び「ま ちなか滞留」を促します。	■油津別館の有効活用 ・油津別館を地域の歴史や魅力を発信するガイダンスセンタ ーとして改修を行います。 ■ガイダンスセンター整備 ・Wi-Fiをはじめとするデジタルデバイスを活用し、来訪者の 滞留を促進します。 ■交流・飲食スペース整備 ・飲食スペースを設置し、市民や来訪者が交流できるスペース を整備します。	○	○			■		
	歴史文化周知伝承 事業		■歴史資料等の収集・製作、展示 ・堀川運河、飫肥杉等に関する資料を展示し、子どもや来訪者 が学べるようにします。		○	○		■		
	観光 PR 事業		■ホームページ、パンフレットの作成 ・歴史文化遺産を活用したまちの周遊を促進します。 ■情報発信 ・市全体への周遊を促進するため、観光情報を発信します。		○	○		■	■	■
水辺利活用事業	花峯橋復原事業	国の登録有形文化財・花峯 橋の再生を起点に堀川運河が 持つ水辺の特性を活かした体 験型観光のメニューを創設 し、観光客等の集客を図ります。 また、市民の郷土愛の醸成 を図り、自らが堀川運河をは じめとする文化財を守る仕組 みを構築します。 水辺を活用した周遊を促す ための戦略として周遊ルート の設定及び案内サイン等のハ ード整備を行います。 更に、油津地区のみならず 市内全体への周遊を促進する ための事業を実施します。	■花峯橋の復原整備 ・国の登録有形文化財の価値を保存した復原整備を行います。 ■花峯橋を活用したイベント企画等 ・花峯橋の構造を学んだり、堀川運河周辺を巡るツアー等のイ ベントを企画します。 ・堀川運河を中心とした周遊ルートを設定します。 ■整備検討委員会の設置 ・整備検討委員会を設置し、整備手法等について検討します。	○				■	■	■
	体験型観光メニュー の創設		■体験型観光メニューの創設 ・水辺を活用した体験型観光メニューを創設し、堀川運河周辺 の周遊及び滞留を促進します。		○			■	■	
	専門家派遣		■専門家によるコーディネート業務 ・堀川運河周辺の歴史文化遺産を活用したまちづくりを円滑 に進めるため、コーディネート業務を専門家に委託します。	○	○	○	○	■	■	■
	周遊促進事業		■水辺を活用した周遊戦略 ・周遊ルートや案内サインの整備、観光 PR を実施し、油津地 区内外からの誘客を図る戦略を構築します。		○	○		■	■	■

事業名	具体的取組	事業の方針	概要	柱となる4つの事業展開				実施時期		
				観光資源 の整備	周遊促進	情報発信	人材育成	初期 (R6-7)	中期 (R8-9)	後期 (R10-)
河野宗泰家活用事業	河野宗泰家主屋 整備事業	国の登録有形文化財である河野宗泰家を改修し、観光客や地域住民などが交流、滞在できるスペースとして整備します。	■まちなかハブの整備 ・観光客や地域住民など、多様な人が集い、交流できる場所を整備します。 ・国の登録有形文化財の歴史的価値を保存し継承していきます。	○				■	■	
	河野宗泰家庭園 整備事業	また、河野家の庭園を緑地化し、回遊時の休憩や飲食が可能なスペースとして活用します。	■休憩スペースの整備 ・まちなか周遊の休憩スペースとして庭園を整備します。 ・利用者が居心地よく快適な空間を創出します。		○				■	
	赤レンガ館整備事業	更に、隣接する赤レンガ館に人が集まる飲食店等を検討し、必要な改修を実施します。	■赤レンガ館との連携 ・人が集まり、居心地のいい空間を創出するため、赤レンガ館への飲食店等への整備を検討します。	○	○			■	■	
空き家活用事業	空き家 (文化財・古民家) 活用事業	地区内の文化財や古民家の活用については、民間主導による体制を構築し、企業等の誘致・雇用の促進に繋がる事業とします。	■既存施設利活用状況調査（事業スキーム検討） ・民間投資による既存施設の再生を進めるにあたり、資金の確保や継続して運営できる民間主導の体制づくりの調査検討を行います。 ・既存施設活用を促進するための財政支援を検討します。 ■利活用検討会設置 ・既存施設の利活用方針の検討を行います。	○	○			■	■	■
市民協働による まちづくり検討	市民活動支援事業	地域住民が新たな魅力を創出する事業に対し支援を行い、市民自らが地域活性化について考える機運を高めます。 また、本事業の遂行にあたっては、地域住民等で構成する検討会を設置し、官民一体になって取り組んでいきます。	■市民団体の活動支援 ・新たな地域の魅力を創出する市民団体の活動に対し支援を行います。 ■市民フォーラムの開催 ・市民活動等の事例を発表するなどの市民フォーラムを開催し、地域全体でまちづくりの機運を高めていきます。		○		○	■	■	■
	まちづくり検討会の 設置		■（仮称）油津まちづくり検討会の設置 ・地域住民をはじめ関係者を委員とした（仮称）油津まちづくり検討会を設置し、事業に対する進捗の共有及び提言等を行いながら、官民一体となって事業を進めていきます。			○	○	■	■	■
油津地区全体の 資源の活用	エリア全体へ 波及効果のある取組	歴史文化遺産の活用に限らず、近隣の港や商店街の資源を活用した幅広い取組を実施します。	・歴史文化遺産の活用に限らず、近隣の港や商店街の資源を活用した幅広い取組を実施します。		○	○		■	■	■
持続ある事業の継続	担い手の育成	継続してまちの賑わいを創っていく担い手である人材の育成を進めます。	・継続してまちの賑わいを創っていく担い手である人材の育成を進めます。				○	■	■	■

表4-3 事業行程表

	事業名		事業項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	備 考
				4 6 8 10 12 2	4 6 8 10 12 2	4 6 8 10 12 2	4 6 8 10 12 2	4 6 8 10 12 2	
1	ガイダンスセンター（資料館）整備事業	ガイダンスセンターの整備	プロポーザル・実施設計						
			改修工事						
		資料・備品等の展示	資料・備品等の購入、整備検討						
			資料・備品等の購入、整備						
		観光PR	観光PR戦略の検討						
			HPの開設・運用						
			パンフレット作成						
		運営者選定	運営者の選定						
			運営者との契約						
2	水辺利活用事業	花峯橋の整備	解体工事						
			地盤・部材調査等						
			実施設計						
			復原工事						
			保存活用計画策定						
			整備検討委員会の設置						
		体験メニュー創出等	体験メニュー検討						
			体験メニュー創設委託						
			事前調査（水質検査）						
		専門家派遣	コーディネーター委託						
		周遊促進等	周遊促進検討						
			VR開発委託、周遊促進委託						
			工事（案内サイン等）						

	事業名	事業項目	令和６年度						令和７年度						令和８年度						令和９年度						令和１０年度						備 考	
			4	6	8	10	12	2	4	6	8	10	12	2	4	6	8	10	12	2	4	6	8	10	12	2	4	6	8	10	12	2		
3	河野宗泰家 活用事業	主屋の整備	施設耐震・劣化調査																															改修工事については、 利活用の検討結果を踏 まえて判断する。
			利活用検討																															
			実施設計																															
			改修工事																															
			保存活用計画策定																															
		庭園の整備	実施設計																															
			改修工事																															
		赤レンガ館の活用	利活用の検討																															
			【改修工事を行う場合】 改修工事（設計含む）																															
4	空き家 活用事業	運営体制の構築	運営体制検討会の設置																															
			運営体制の構築委託																															
			市補助金の検討・交付																															
			空き家施工																															
5	市民協働 による まちづくり 検討	市民活動支援事業	補助金交付要綱の作成																															
			補助金交付																															
		まちづくり検討会の実施	定例検討会																															
			市民フォーラムの開催																															
6	評価	事後評価業務委託	事後評価委員会の設置																															
			事後評価業務委託																															
各年度の概算事業費計画			168,000千円						644,000千円						586,000千円						21,000千円						26,000千円						予備費 50,000千円	

(1) 各事業の内容

1) ガイダンスセンター整備事業（資料館整備）

① 事業概要

日南市役所油津別館を活用して、地域の歴史や文化、伝統を紹介する機能を有するとともに、地域住民と観光客が交流できる機能を持ち、まちの周遊の拠点となるガイダンスセンターを整備します。

また、周遊促進や地域の魅力発信のためホームページの開設やパンフレットの作成を行います。



油津別館

② 期待される主な効果

- ・ 油津地区の歴史文化の伝承
- ・ 来訪者や市民が油津地区の歴史文化遺産を学ぶ場
- ・ 油津地区の歴史文化遺産に関する周遊を促進する場
- ・ 地域住民と来訪者との交流の場
- ・ 誰でも自由に利用でき、くつろげる場

③ 具体的取組内容

【ガイダンスセンター整備事業】

■油津別館の有効活用

- ・ 堀川運河に隣接する好条件と既存施設の有効活用を図るため、油津別館をガイダンスセンターとして改修を行います。

■ガイダンスセンター整備

- ・ Wi-Fiをはじめとするデジタルデバイスを活用し来訪者の滞留を促進します。
- ・ 油津地区のみならず日南市全体に関する情報を発信します。

■交流・飲食スペース整備

- ・ 市民や来訪者が交流できるスペースを設置します。
- ・ 飲食スペースを設置し、軽食等を提供し、くつろぎの場を整備します。

【歴史文化周知伝承事業】

■歴史資料等の収集・製作、展示

- ・ 堀川運河、飫肥杉等に関する資料を展示し、子どもや来訪者が学び、歴史文化を継承できるようにします。
- ・ 直接、手に触れ歴史を感じられるものを設置します。

【観光PR事業】

■ホームページ、パンフレットの作成

- ・ 歴史文化遺産を活用した周遊を図るためのパンフレットやホームページの作成を行います。

■情報発信

- ・ガイダンスセンターを拠点に、まちの周遊を促進するため、地域の歴史文化や伝統文化のほか、地域の飲食店や特産品等の情報を発信します。更に、日南市全体の周遊にも寄与するため、市内の観光地の情報も発信します。



図4-2 ガイダンスセンターのイメージ

④ 事業費

470,000 千円（設計 20,000 千円、工事 410,000 千円、
歴史資料等の収集、製作 30,000 千円、観光 PR 10,000 千円）

⑤ 事業期間

令和6年4月～令和11年3月

⑥ 工程

区分	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
設計業務 (※1)	プロポーザルの実施 →				
改修工事		→			
歴史資料等 展示物	展示物の検討 →	導入、整備 →			
観光 PR	戦略の検討 →	HP 開設、パンフレット作成等 →			
運営者の選定 (※2)	運営者の検討 →		運営 →		

(※1) 設計業務はプロポーザルを令和6年度上半期に実施

(※2) 運営者については、民間委託等の方式を検討する

2) 水辺利活用事業

① 事業概要

歴史的価値の高い木橋である花峯橋を復原整備し、新たな文化的価値の創造・発信を図るとともに、堀川運河の歴史の継承や周遊ルートの設定、体験型観光メニューの創設及び滞在環境の向上などにより、地域の賑わいの創出を図ります。



花峯橋

② 期待される主な効果

- ・ 市民が花峯橋の復原整備段階から参画し、郷土愛の醸成や地域コミュニティを形成
- ・ 花峯橋を活用したイベント企画により、市民や来訪者の集いの場を創出
- ・ 来訪者の滞在環境を向上
- ・ 堀川運河とその周辺の歴史資源や水辺空間を含めた面的な魅力の向上
- ・ 油津地区の歴史文化遺産に関する観光の促進
- ・ 滞在時間の延伸による地域活力の向上
- ・ 油津地区内外における周遊の促進

③ 具体的取組内容

【花峯橋復原事業】

■ 花峯橋の復原整備

- ・ 花峯橋の建設経緯や改修履歴の歴史調査等を行い、国の登録有形文化財の価値を保存した復原整備を行います。
- ・ 車両の通行はできない、人道橋として整備します。



復原整備イメージ

■ 花峯橋を活用したイベント企画等

- ・ 地域住民や小学生等が花峯橋の復原整備段階から参画できる機会を設けます。
- ・ 花峯橋の構造を学んだり堀川運河の橋を巡るツアー等のイベントを企画します。
- ・ 堀川運河を中心とした周遊ルートを設定します。



イベントイメージ

■ 整備検討委員会の設置

- ・ 有識者や専門家等で組織する委員会を設置し、整備手法や文化財的価値の保存等について検討します。

■ 保存活用計画の策定

- ・ 今後の整備・活用の方針や保存活用事業を適切に進めていくための方策・体制整備についての指針を定めます。

【体験型観光メニューの創設】

■体験型観光メニューの創設

- ・堀川運河周辺の周遊及び滞留を促進するため、水辺を活用した体験型観光メニューを創設し、社会実験の実施を通して、実現可能性を検討します。

【専門家派遣】

■専門家によるコーディネート業務

- ・堀川運河（水辺）や周辺の歴史文化遺産を活用したまちづくりを円滑に進めるため、事業全体のコーディネート業務を専門家に委託します。



体験型観光メニューイメージ

【周遊促進事業】

■水辺を活用した周遊戦略

- ・周遊ルートや案内サインの整備、チョロ船体験の実施等に加え、観光 PR を実施し、油津地区内外における周遊を促進します。
- ・具体的な内容は「（２）周遊促進の目指す姿」（P40）に示します。

④ 事業費

735,000 千円（花峯橋復原事業 575,000 千円、
観光メニュー造成、専門家派遣、周遊促進等 160,000 千円）

⑤ 事業期間

令和6年4月～令和11年3月

⑥ 工程

区分	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
解体工事	→				
地盤・部材調査等	→				
実施設計		→			
復原工事			→		
保存活用計画策定			→		
整備検討委員会	→	→	→	→	→
体験創出	メニューの検討	社会実験	→	→	→
専門家派遣	→	→	→	→	→
周遊促進	→	→	→	→	→

3) 河野宗泰家活用事業

① 事業概要

国の登録有形文化財である河野宗泰家を改修し、観光客や地域住民など、多様な人々が交流、滞在できる「まちなかハブ」として整備します。あわせて、河野宗泰家庭園の緑地化等を行い、回遊時の休憩や飲食が可能なスペースとします。



河野宗泰家

また、隣接する赤レンガ館と連携した集客を図るため、赤レンガ館における飲食店等の導入について検討し、必要な改修を行います。

② 期待される主な効果

- ・ 歴史文化遺産（河野宗泰家）の継承
- ・ 地域住民と観光客等の交流の促進
- ・ 歴史的な街並みの景観向上
- ・ 来訪者の滞在環境の向上

③ 具体的取組内容

【河野宗泰家主屋整備事業】

■ まちなかハブの整備

- ・ 観光客や地域住民など、多様な人が集い、交流できる場所を整備します。
- ・ Wi-Fi などのデジタルデバイスを整備し、快適な滞在空間を創出します。
- ・ 国の登録有形文化財の歴史的価値を保存し継承していきます。



まちなかハブイメージ

【河野宗泰家庭園整備事業】

■ 休憩スペースの整備

- ・ まちなか周遊の休憩スペースとして庭園を整備します。
- ・ 利用者が居心地よく快適な空間を創出します。
- ・ イベント活用や情報発信など多目的に活用できるスペースとします。



河野宗泰家庭園

【赤レンガ館整備事業】

■ 赤レンガ館との連携

- ・ 人が集まり、居心地のいい空間を創出するため、赤レンガ館への飲食店等への整備を検討します。



赤レンガ館



図4-3 河野宗泰家主屋及び庭園のイメージ

④ 事業費

170,000 千円（主屋整備 140,000 千円、庭園整備 30,000 千円）

⑤ 事業期間

令和6年4月～令和10年3月

⑥ 工程

区分		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
主屋	耐震・劣化調査	→				
	利活用検討	→				
	実施設計		→			
	改修工事			→		
	保存活用計画策定				→	
庭園	実施設計		→			
	改修工事			→		
赤レンガ館の利活用検討		→		改修の場合 →		

4) 空き家活用事業

① 事業概要

油津地区内の文化財や古民家の活用について、民間主導による体制を構築し、企業等の誘致・雇用の促進に繋がる取組を推進します。



文化財の例（杉村金物本店）

② 期待される主な効果

- ・ 歴史文化遺産の継承
- ・ 文化財を活用した地域の賑わい創出
- ・ まちの魅力向上や歴史的な街並みの景観向上による周遊促進
- ・ 来訪者の滞在環境の向上
- ・ 民間事業者の進出による雇用の促進

③ 具体的取組内容

【空き家（文化財・古民家）活用事業】

■ 既存施設利活用状況調査（事業スキーム検討）

- ・ 民間投資による文化財や既存施設の再生を進めるにあたり、資金の確保や継続して運営できる民間主導の体制づくりの検討を行います。
- ・ 既存施設活用を促進するための財政支援を検討します。

■ 利活用検討会設置

- ・ 油津地区内における既存施設の利活用方針の検討を行います。



利活用イメージ

④ 事業費

50,000 千円

⑤ 事業期間

令和6年4月～令和11年3月

⑥ 工程

区分	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
検討会の設置					
運営体制の構築委託					
市補助金の検討・交付					

【参考事例】 飢肥城下町



古民家活用のイメージ

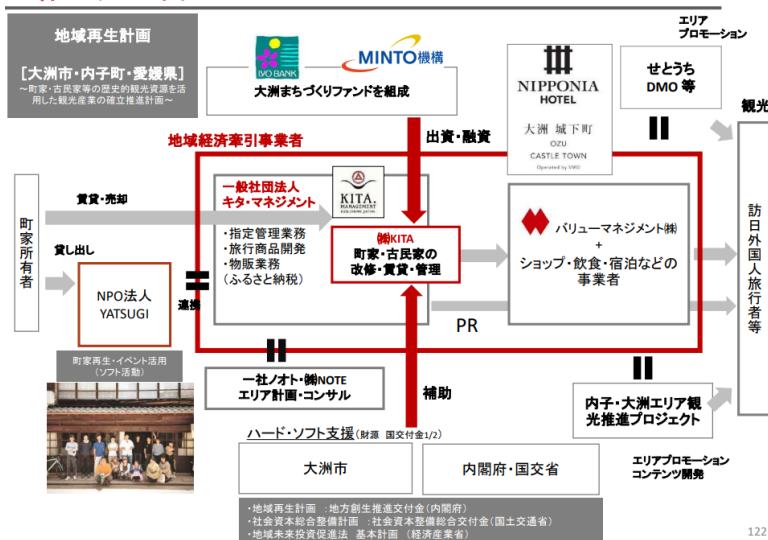
飢肥では、重要伝統的建造物群保存地区に指定された飢肥地区の歴史的な街並みを活かし、観光まちづくりを進めるため、官民連携のチームを構築し、特に主要都市圏からのアクセスに課題を持つ地域の先進事例になるべく、古民家を改装し、宿泊施設として開業しました。

出典：歴史的資源を活用した観光まちづくり成功事例集
_内閣官房 歴史的資源を活用した観光まちづくり連携推進室

【参考事例】 大洲市

全体スキーム図

(令和2年3月現在の本計画のスキーム図)



愛媛県大洲市では、町家・古民家等の歴史的資源の保全、活用を図るため「大洲市観光まちづくり町家活用エリア実施計画」を作成しています。その中で、民間も含め、地域一体となって観光まちづくりを推進していくためのスキームを構築しています。

スキームイメージ

出典：大洲市観光まちづくり町家活用エリア実施計画_大洲市観光まちづくり戦略会議

5) 市民協働によるまちづくり検討

① 事業概要

コンセプトである「堀川運河周辺の歴史・文化を感じ、居心地のよい歩きたくなるまち」の実現に向けて、官民一体となって多くの人が交流し、滞在できる空間を創出することが大切です。

更に、市民はまちづくりの主役であり、主体的に取り組んでいくことが求められることから、生活環境の向上などの生活に関わる地域レベルのまちづくりにおいて、市民自らが考え、積極的に参加していくことが望まれます。

このようなことから、市民協働による事業の推進を図る取組を実施します。

② 期待される主な効果

- ・ 地域コミュニティ機能の強化
- ・ 歴史文化遺産の継承
- ・ 地域住民と観光客等の交流の促進
- ・ 賑わい創出による地域活力の向上

③ 具体的取組内容

【市民活動支援事業】

■ 市民団体の活動支援

- ・ 日南市内では、イベント等を通じて市内外からの誘客に努める市民団体が活躍しています。自らが住むまちの賑わいは市民自らで創設するという機運があることが高く評価でき、まちづくりを持続していくうえで、このような市民活動は不可欠です。そのため、本事業の趣旨や目標達成に向けて活動する市民団体に対し、支援する事業を行います。

【油津地区におけるまちづくりの事例】



油津地域協議会では、油津小学校児童がガイドを行う「港町油津へえ～ほお～まちあるきツアー」を企画し、油津の名所である吾平津神社や堀川運河、堀川橋など7箇所を、市民と散策しています。

出典：油津地域協議会 HP

■ 市民フォーラムの開催

- ・ 市民活動等の事例を発表するなどの市民フォーラムを開催し、地域全体でまちづくりの機運を高めていきます。

【まちづくり検討会の設置】

■（仮称）油津まちづくり検討委員会の設置

- ・地域住民をはじめ関係者を委員とした（仮称）油津まちづくり検討委員会を設置し、事業に対する進捗の共有及び提言等を行いながら、官民一体となって事業を進めていきます。



検討会イメージ

④ 事業費

7,000 千円

- ・市民活動支援事業・市民フォーラム（5,000 千円）
- ・（仮称）油津まちづくり検討委員会（2,000 千円）

⑤ 事業期間

令和6年4月～令和11年3月

⑥ 工程

区分	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
市民活動支援事業	→				
（仮称）油津 まちづくり検討会	→				
市民フォーラムの 開催		→		→	

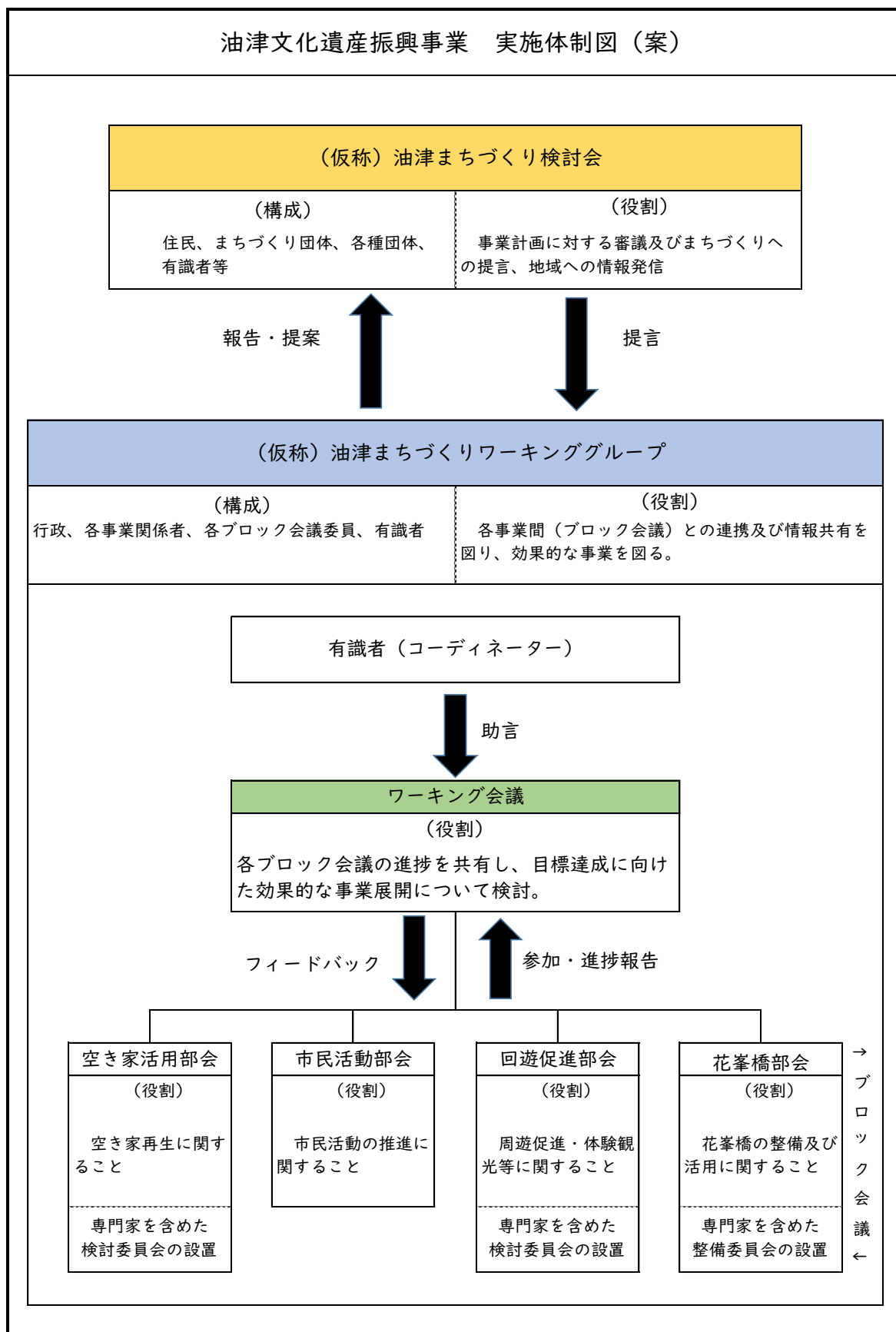


図 4-4 実施体制図（案）

(2) 周遊促進の目指す姿

前段で示した各事業に基づき、駅や商店街がある中心市街地や資源等が多く分布する油津地区において機能の充実を図ることに加え、ソフト面での多様な施策を取り入れていくことにより、油津地区内外における周遊を促進します。

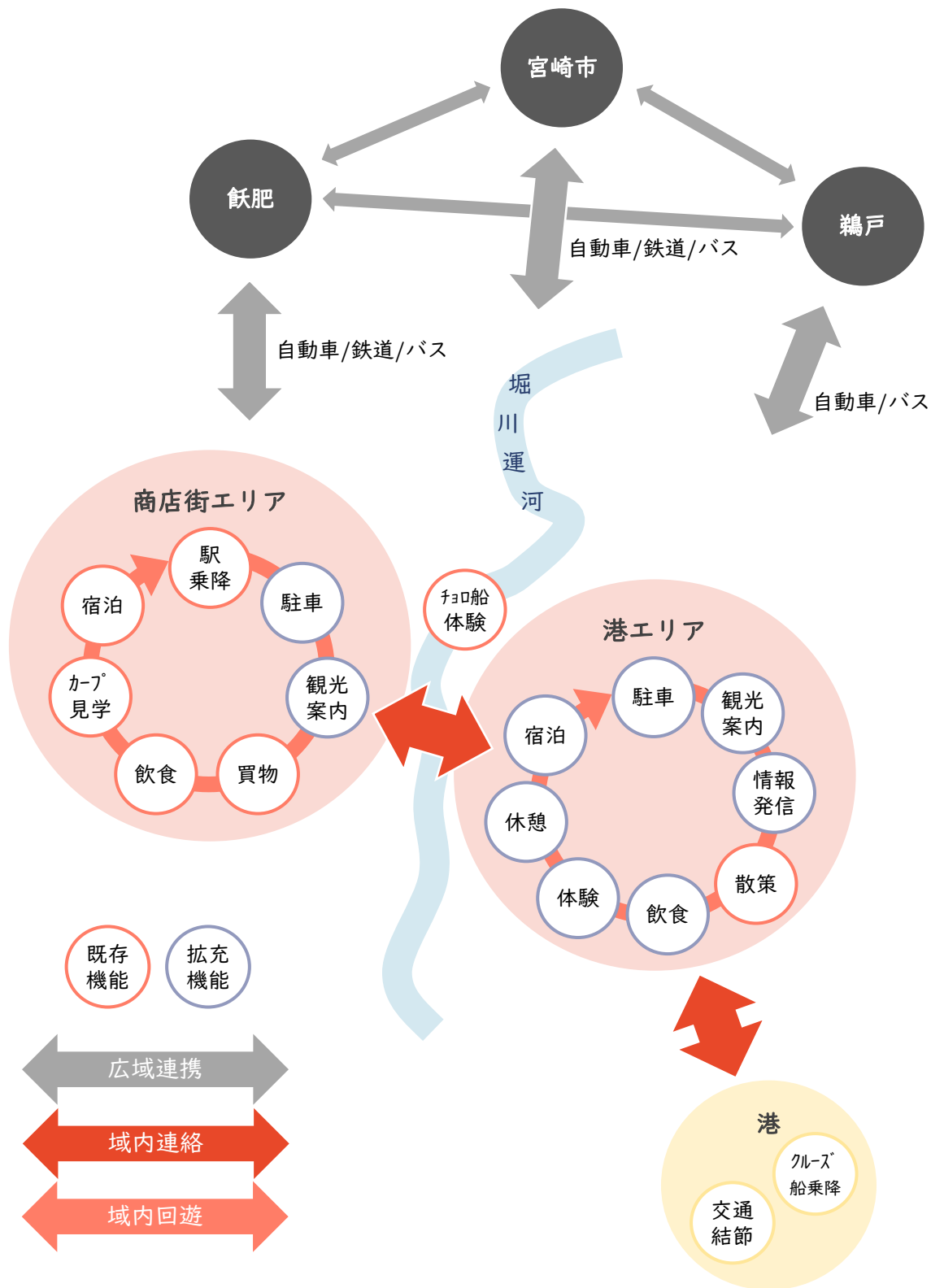


図 4-5 市内外の周遊イメージ

1) 油津地区における周遊

油津地区における周遊の促進にあたっては、これまで地域で進められてきた様々な取組等の歴史・背景や市民意見を踏まえ、「港町油津の歴史（変遷）をたどる観光」をテーマとして設定します。

テーマ

港町油津の歴史（変遷）をたどる観光

表 4-4 港町油津の変遷

時代	その頃の油津	油津の関連資源	市内の関連資源
太古	天然の良港に適したリアス海岸の形成	・ 雀八重 	日南海岸 (青島・堀切峠)
飛鳥時代	油津の地名の起こり	・ 乙姫神社（吾平津神社） 	鵜戸神宮（鵜戸） 駒宮神社（東郷） 小布瀬の滝（酒谷）
鎌倉時代 ～ 室町時代	倭寇の拠点 日明貿易・南蛮貿易における寄港地の一つ	・ 油津港 	
江戸時代	飢肥御用船の繫留港		飢肥城下町（飢肥） 榎原神社（南郷）
	堀川の開削	・ 堀川運河 ・ 人柱様記念碑 ・ 広渡川石堰堤	
	飢肥杉の積出港	・ 旧河野宗泰家主屋及び炊事場 ・ 渡邊家住宅 ・ チョロ船	旧山本猪平家（飢肥）
明治時代	大阪商船の寄港	・ 堀川橋（乙姫橋） ・ 旧服部家別荘 ・ 横店	小村寿太郎（飢肥） 竹香園（飢肥）

時代	その頃の油津	油津の関連資源	市内の関連資源
大正時代	農商務省により 国内 7 港の漁港整備 の一つに指定	・油津港 ・第一突堤 ・杉村金物本店倉庫 ・油津赤レンガ館 ・鈴木旅館	
	軽便鉄道の整備	・祇園神社 	
昭和時代	東洋一のマグロ基地	・満尾書店 ・花峯橋 ・杉村金物本店主屋 ・旧外山医院 ・マグロ通り	山仮屋隧道（北郷）
	米軍空襲による被害	・日本海軍特攻兵器回天基地跡地	
	市街地整備と商業の 発展	・日南山形屋 ・油津商店街	
	広島東洋カープの キャンプ地	・天福球場  ・油津駅舎 ・カープ一本道 ・油津カープ館（油津商店街）	
現代	地域による まちづくり	・登録有形文化財（21箇所） ・夢見橋  ・堀川夢ひろば	
	ロケ地	・堀川運河他（男はつらいよ） ・渡邊家住宅（わかば）	

■ 具体的取組内容

① 体験型観光メニューの創設

堀川運河における体験型観光メニューの創設に向け、既存のチョロ船の充実が考えられます。乗船体験の定期的な実施に向け、仕組みづくりや安全対策等の社会実験を行います。

ルートのイメージは、図4-6に示します。



チョロ船体験

② 案内サイン整備

道路上に観光拠点の案内サインを設置し、油津駅や油津港、将来整備予定の東九州自動車道の油津IC（仮称）からのアクセス性向上や観光拠点間の回遊促進を図ります。

なお、設置する案内サインについては、多言語標記やピクトグラムの活用などにより、外国人旅行者にも分かりやすいものにします。また、既存の案内サインとの整合性を図りながら、油津地区の街並みや景観に配慮し、地域の魅力を高められるようなデザインや配置を検討します。

【参考事例】観光ルートサイン



案内サインのイメージ

奈良県斑鳩町では、世界文化遺産である法隆寺、法起寺をはじめとした多くの社寺がありますが、これまでは法隆寺のみを拝観する観光となっていました。点在する社寺を巡るまちあるき観光を促進するため、斑鳩めぐり案内図を設置し、観光ルート案内が行われています。

写真：株式会社コトブキ

③ 周遊ルート検討

堀川運河を軸とした周遊ルートを検討し、周知を行います。

ルートのイメージは、図4-6に示します。

④ サイクリングコース検討

県サイクルツーリズムと連動したサイクリングコースの整備とレンタサイクルの活用促進やサイクリストの受け入れ環境整備についても検討を行います。

コースのイメージは、図4-6に示します。

⑤ 観光ガイド導入検討

油津地区の歴史文化遺産を案内できるよう、講習会の実施により観光ガイドを育成するとともに、コミュニティビジネスとなる有料観光ガイドの導入に向けて仕組み等の検討を行います。

【参考事例】文化観光ガイド育成



兵庫県高砂市では、観光客に市の歴史、文化を正しく理解してもらうため、文化観光ガイドの養成講座を実施し、人材育成に取り組んでいます。既存のガイド団体構成員や、公募による参加者など、幅広い人材の確保に努めるとともに、外国語によるガイドが可能となるよう、インバウンド対応講座を開催する予定としています。

ガイド育成のイメージ

出典：歴史文化基本構想を活用した観光拠点づくり事業事例集_文化庁地域文化創生本部

⑥ モビリティ導入検討

来訪者の移動手段を充実するため、ガイダンスセンター、まちなかハブ等を拠点としたモビリティ（移動手段）の導入について検討を行います。

【参考事例】超小型モビリティ



鳥取県鹿野町では、城下町で道幅の狭い町に点在する観光資源を結ぶ手段として超小型モビリティを導入しました。

田園風景や趣ある街並みとの調和を図りつつ観光客の周遊性を向上するとともに、地域住民に対してもカーシェアリングサービスを提供しています。

モビリティのイメージ

出典：超小型モビリティの導入事例_国土交通省自動車局安全・環境基準課

⑦ VR 観光案内検討

観光案内に VR（Virtual Reality：仮想現実）を活用するなど、歩きたくなる仕掛けづくりの検討を行います。

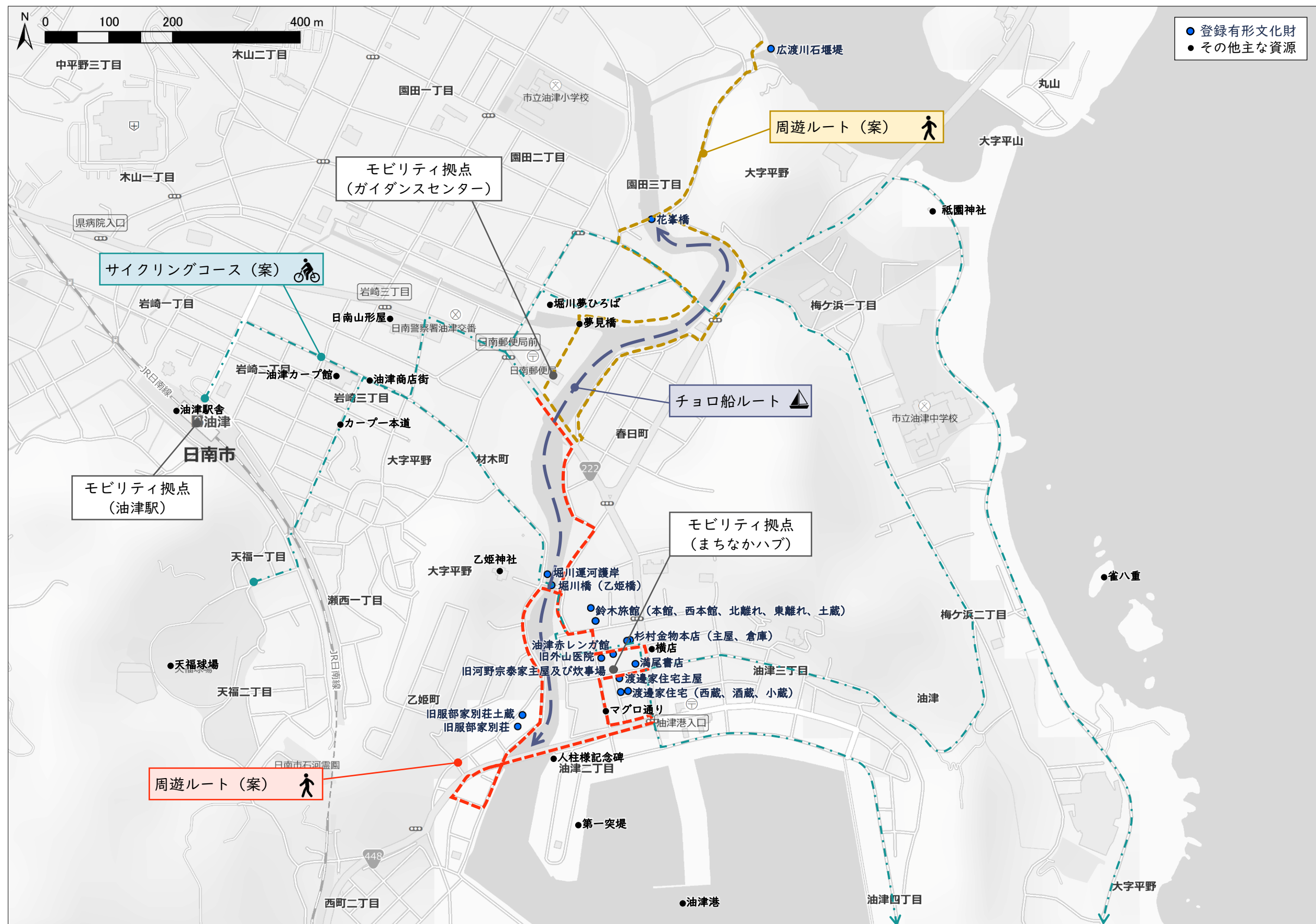
【参考事例】 アンコールワット VR 体験



カンボジアでは、アンコールワットに VR 閲覧ポイントを設定し、建築までの経緯や当時の生活風景の VR 動画をスマートフォンアプリ上で提供しています。当該地点以外ではコンテンツが閲覧できない機能とし、現地への誘客促進を図るとともに、現地で見たコンテンツは自分のアプリ上でデジタルコンテンツのお土産として持ち帰れる仕組みとし、再訪意欲の喚起を図っています。

VR 観光案内のイメージ

出典：最先端 ICT(VR/AR 等)を活用した観光コンテンツ活用に向けたナレッジ集
—国土交通省観光庁観光資源課



2) 市全体における周遊

■ 具体的取組内容

① 来訪者が楽しめるコンテンツ導入検討

市全体における観光滞在時間の延伸に向けて油津地区での宿泊を促進するため、来訪者が楽しめるコンテンツの導入について検討を行います。

【参考事例】文化遺産活用型ナイトコンテンツ



沖縄県南城市では、国指定史跡を舞台にしたディナー＆音楽体験、世界文化遺産での朝陽と祈り体験コンテンツを開発・実施しています。

豊富な文化資産を活かした高価格帯の夜間・早朝コンテンツを連動させながらプロモーション・販売し、宿泊者と観光消費額の増加を狙っています。

夜間コンテンツのイメージ

出典：アフターコロナにおける観光マーケットの傾向と本質的課題解決への事例集_観光庁

【参考事例】南魚沼雲海ハント



新潟県南魚沼市では、以前から一個人がボランティアで行っていた雲海見学を鑑賞スポットへ誘客するツアーとしました。

気象に左右される自然が鑑賞対象となるため、地元名産の魚沼産コシヒカリを味わう付加価値を加え、「GO HUNT UNKAI-ごはんと雲海ツアー-」として事業を推進しています。

早朝コンテンツのイメージ

出典：アフターコロナにおける観光マーケットの傾向と本質的課題解決への事例集_観光庁

② 観光 PR

市全体における周遊を促進できるよう、観光パンフレットやホームページの作成による広域的な観光 PR を行います。

また、市内各地の観光関連施設等と連携し、相互に観光パンフレットの配置を行うなど、市内の観光拠点間の流動を促進します。

更に、各種 SNS を活用し、市内の観光拠点における位置情報データの登録を積極的に行い、本市への来訪のきっかけづくりを図ります。

【参考事例】ガイドマップの作成



ガイドマップのイメージ

出典：テーマ別観光による地方誘客事業＜取組事例集＞_観光庁観光地域振興部観光資源課

「明治日本の産業革命遺産」の周遊を喚起するツールとして九州周遊ガイドマップ（日本語版、英語版）を作成しています。

九州エリアを中心に、鉄道駅・空港・SA/PA等の交通拠点に集中して配布し、目的地を明確に定めていない旅行者へ情報発信を行っています。

③ モデルルートの設定・周知

油津地区を含めた市内を周遊する観光モデルルートを設定し、市内の交通拠点や観光拠点、ホームページ等において広く周知を行います。

【参考事例】モデルルートの設定



モデルルート周知のイメージ

出典：日南市観光協会 HP

日南市観光協会では、日南海岸鉄肥コース等を提案し、ホームページ上で紹介しています。

スポット紹介に加え移動手段や所要時間の目安を示しています。

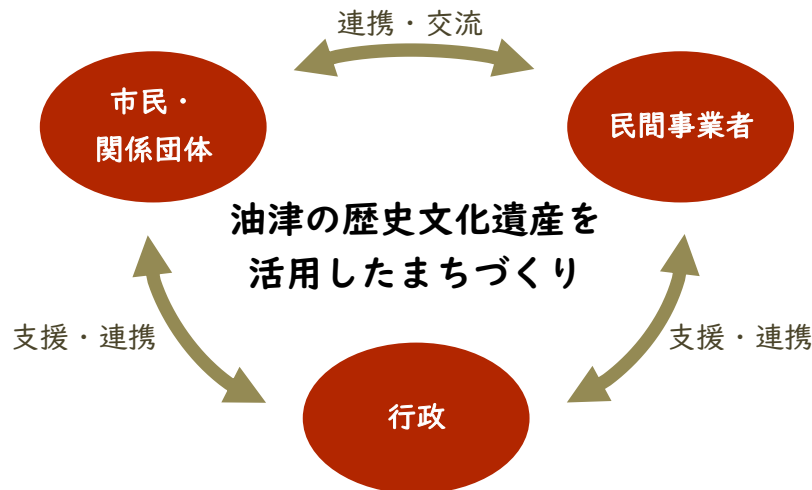
表4-5 想定する行動パターンの例

	想定時刻	所要時間	場所・内容	
空港利用者 (1泊2日)	12:00	—	宮崎ブーゲンビリア空港	
	12:00	45分	↓レンタカー移動	
	12:45	180分	飫肥城下町(食事・まちあるき)	
	15:45	15分	↓レンタカー移動	
	16:00	60分	油津地区 (19h)	観光案内・資料見学
	17:00	90分		散策・歴史文化遺産見学・休憩
	18:30	—		宿泊
	10:00	60分		体験(チョロ船等)
	11:00	60分		食事
	12:00	20分	↓レンタカー移動	
	12:20	180分	鵜戸神宮・日南海岸	
	15:20	40分	↓レンタカー移動	
	16:00	—	宮崎ブーゲンビリア空港	
油津港利用者 (クルーズ船) (日帰り)	8:30	—	油津港	
	8:30	15分	↓バス移動	
	8:45	180分	飫肥城下町(食べ歩き・まちあるき)	
	11:45	15分	↓バス移動	
	12:00	60分	油津地区 (5h)	観光案内・資料見学
	13:00	60分		食事
	14:00	60分		散策・歴史文化遺産見学
	15:00	60分		体験メニュー(チョロ船等)
	16:00	30分		休憩
	16:30	30分		買い物
	17:00	10分	↓バス移動	
	17:10	—	油津港	
マイカー利用者 (1泊2日)	11:30	60分	道の駅きたごう(食事・買い物)	
	12:30	30分	↓マイカー移動	
	13:00	150分	鵜戸神宮・日南海岸	
	15:30	15分	↓マイカー移動	
	15:45	150分	飫肥城下町(まちあるき)	
	18:15	—	宿泊	
	10:00	20分	↓マイカー移動	
	10:20	60分	油津地区 (5h)	観光案内・資料見学
	11:20	60分		散策・歴史文化遺産見学
	12:20	60分		食事
	13:20	60分		体験メニュー(チョロ船等)
	14:20	30分		休憩
	14:50	30分		買い物
	15:20	20分	↓マイカー移動	
	15:40	80分	道の駅なんごう(買い物・植物観察)	
	17:00	—	↓マイカー移動	

第5章 計画の推進

(1) 計画の推進体制

歴史文化遺産の活用による魅力ある観光地の形成や、交流人口や関係人口の増加を実現するためには、行政だけでなく、市民や関係団体、民間事業者等との協働が重要となります。このため、市の関係各課をはじめ、市民や関係団体、民間事業者等の多様な主体による推進体制を構築し、事業等の進行管理や評価等による計画の着実な推進を図ります。



■行政

- ・行政は、まちづくりの推進にあたり、広域的な視点から関係各課との連携・調整を図りながら、総合的かつ計画的に取組を展開していくことが求められます。
- ・更に、まちづくりに関わる情報発信や仕組みづくり、市民等による活動の支援等、協働のまちづくりを推進していくことが求められます。

■市民・関係団体

- ・市民はまちづくりの主役であり、主体的に取り組んでいくことが求められます。
- ・行政サービスの受け手であると同時に、環境美化などの生活に関わる地域レベルのまちづくりにおいて、市民自らが考え、積極的に参加していくことが望まれます。

■民間事業者

- ・民間事業者が持続的な経営と利潤確保を可能とするためには、社会や地域への貢献が重要であることから、まちづくりの担い手の一員としての役割が求められます。
- ・まちづくりを担う主体の一員として、事業を通じた地域経済の活性化への積極的な貢献・協力が期待されています。

図5-1 油津の歴史文化遺産を活用したまちづくりの主体と役割のイメージ

（２）計画の進行管理

本計画は、策定（PLAN）後の事業の実施（DO）を受け、その結果を評価（CHECK）し、社会情勢の変化等を踏まえながら必要に応じて見直し（ACTION）を行う PDCA サイクルによる進行管理を行います。

なお、評価にあたっては、市民アンケートによる満足度や油津港・堀川運河周辺の通行量、市民主体のイベント参加者数を指標とします。

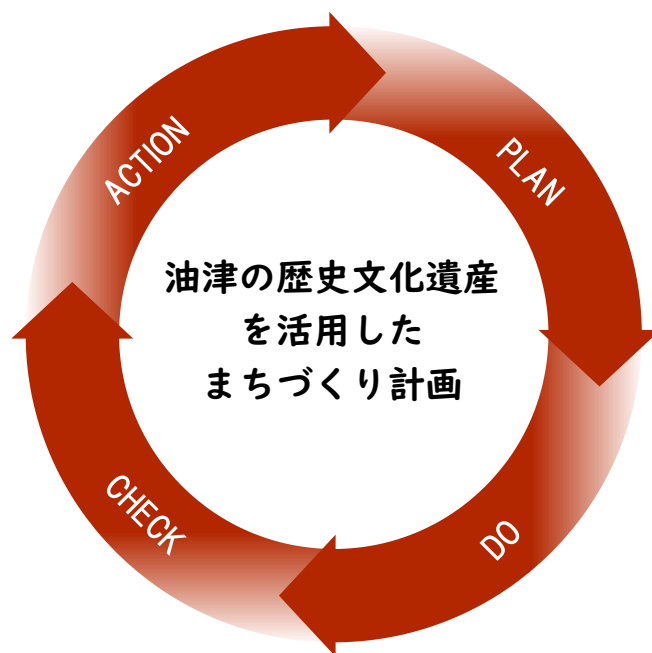


図 5-2 進行管理のイメージ

表 5-1 評価指標

指標	従前値	基準年度	目標値	目標年度
地域資源を活用した観光地の形成 （市民アンケート）	満足・やや満足 19.5%	R4 年度	満足・やや満足 40%	R10 年度
堀川運河周辺の通行量	700 人/日	R5 年度	1,000 人/日	R10 年度
市民主体イベントの参加者数	1,050 人	R4 年度	2,000 人	R10 年度

資料編

・油津の登録有形文化財

表-1 登録有形文化財一覧

名称・写真	概要
杉村金物本店	
杉村金物本店主屋 	・国登録有形文化財（平成10年10月9日登録） ・昭和7年（1932年）、油津港に通じる道路に面した角地に杉村商店が建てた木造3階建ての店舗兼用住宅。1階を店舗、2・3階を住居にあてる。縦長の窓や隅の石張り風の仕上げなど洋風の意匠を取り込み、外壁を銅板で覆った外観に特徴があり、油津の街並みでひととき目立つ存在となっている。日本建築学会の『日本近代建築総覧』に掲載されているほか、宮崎県建築百景にも選ばれた。
杉村金物本店倉庫 	・国登録有形文化財（平成10年10月9日登録） ・大正9年（1920年）に、当時木造2階建ての主屋の西に隣接して建てられた煉瓦造3階建てのせいの高い倉庫で、2階と3階の間は石材を帯状にまわして外観に変化を持たせている。主屋とともに街並みでひととき目立つ存在で、赤煉瓦で開口部の少ない外観の意匠は銅板で覆った主屋と好対照をなす。明治25年（1892年）に操業を始めた杉村商店は、金物・船具・セメントなどを取り扱っていた。
油津赤レンガ館	
	・国登録有形文化財（平成10年10月9日登録） ・大正10年（1921年）、飢肥杉の取り扱いで財を成した油津の豪商河野宗四郎の四男宗人が建築した。堀川運河の東方、中町通りに北面して建つ煉瓦造2階建てで、内部は中央にアーチ天井の通路があり、左右2室となっている。各室の入口もアーチとなっている。平成21年度（2009年度）に改修工事を行った。
旧河野宗泰家主屋及び炊事場	
	・国登録有形文化財（平成10年10月9日登録） ・河野家は江戸時代後期から明治時代にかけて飢肥杉（弁甲材）の取扱い商人として財を成した。旧河野宗泰家主屋及び炊事場は、下町通りに南面して建つ。道路に面して居住部分を配し、後方に炊事場を置く。江戸時代末までの建物を、大正10年（1921年）頃に当時としては珍しい石油商を営んでいた河野宗人が増築して2階建てとした。平家部分は道路に面しているが、2階建ての座敷は道路からわずかに後退させているところに特徴がある。

名称・写真	概要
堀川橋（乙姫橋）	
	・国登録有形文化財（平成 10 年 12 月 11 日登録） ・明治 36 年（1903 年）、石工の石井文吉が、堀川運河の油津上町と対岸の材木町を渡すとともに、吾平津神社の参道橋の役割も兼ねて架けた単アーチの石橋である。長さ 21m（欄干の両端間）、幅 5.65m を計り、現存する石橋としては南那珂地区最大の規模を誇る。江戸時代前期に掘られた堀川運河とともに油津を代表する景観である。平成 5 年（1993 年）には、映画「男はつらいよシリーズ第 45 作－寅次郎の青春－」の舞台となった。
堀川運河護岸	
	・国登録有形文化財（平成 16 年 2 月 17 日登録） ・明治時代から大正、昭和初期にかけて、堀川運河の両岸が飢肥杉（弁甲材）の貯木場となったことにより、護岸の補強のために、各土地の所有者である河野家や川越家などの木材業者が石積みで築造した。また、堀川運河からの舟運が主な交通機関であったことから、運河沿いの各所に石段が設けられたほか、飢肥杉を揚げ降ろしするために斜路と呼ばれる傾斜スロープも各所に設置された。石材は日南海岸の砂岩を、外面の一面を長方形のほぼ同一規格になるように加工して、間知石積みの谷積みで積んでいる。堀川運河護岸は、江戸時代から昭和 30 年代まで、日本国内のみならず、朝鮮半島や台湾、中国における木造船の主な船材として使われた飢肥杉の貯木場の繁栄を物語る遺産であり、堀川運河と油津の街並みの有機的な繋がりを現代に伝えている。
広渡川石堰堤	
	・国登録有形文化財（平成 16 年 2 月 17 日登録） ・飢肥藩伊東家 5 万 1 千石の特産品である飢肥杉を積み出すために、貞享 3 年（1686 年）に完成した堀川運河の取水口に築かれた石積みの堤である。石堰堤は、堀川運河に流入する水量を調整することが目的で築かれており、取水口の上流部から下流部へ突き出すように築かれた断面台形の石積みの堤である。平部南の『日向地誌』には、長さ 37 間、馬踏 1 間、堤敷 3 間、高さ 1 丈 1 尺と記されており、現状の約 20m の長さに較べてかなり長いことが知られる。昭和 5 年（1930 年）に堀川運河取水口に閘門が設置されて、石堰堤と閘門の間にも新たに石積み護岸が築かれた。

名称・写真	概要
花峯橋	
	・国登録有形文化財（平成 16 年 2 月 17 日登録） ・昭和 4 年（1929 年）の油津岩崎と東郷間の県道工事に伴い、堀川運河に架橋された。その後、第二次世界大戦後間もない時期に、堀川運河内の 2 ヶ所の橋脚基礎をコンクリートに変更している。橋の構造は、木造方丈橋で、橋長 26.8m、幅員 6.1m を測る。宮崎県内において、戦前に架橋されて、都市部に現存する木造橋は数少なく、堀川運河の歴史的景観を構成する要素として重要であることはもちろんのこと、国内の木造橋の歴史を考える上でも重要な物件である。
鈴木旅館	
鈴木旅館本館 	・国登録有形文化財（平成 18 年 3 月 27 日登録） ・南側道路からやや後退して建ち、南北 8 間、東西 6 間の規模で、入母屋造東西棟の 2 棟を南北棟の両下造で繋ぐ。木造 2 階建、棧瓦葺とする。1 階前方に内玄関、浴室を置き、奥を大広間とし、2 階に客室 5 室を置く。油津の明治期からの老舗旅館として貴重。
鈴木旅館西本館 	・国登録有形文化財（平成 18 年 3 月 27 日登録） ・南側道路に面して、本館の西側に建つ。桁行 5 間半、梁間 5 間半の規模で、木造 2 階建、寄棟造、棧瓦葺とする。1 階は道路側に表玄関を構え、西半を調理場とし、2 階に客間 5 室をとる。昭和初期に本館の西側に増築されたもので、旅館の発展を今日に伝える。
鈴木旅館北離れ 	・国登録有形文化財（平成 18 年 3 月 27 日登録） ・西本館の北側に建ち、桁行 4 間、梁間 3 間の規模で、木造 2 階建、入母屋造、棧瓦葺とし、1、2 階に客室をそれぞれ 1 室とする。北方に木造平屋建の小規模な客室棟が付属する。昭和初期の油津港の繁栄した頃に増築された離れで、当時の旅館の発展を知る上で貴重。

名称・写真	概要
鈴木旅館東離れ 	・国登録有形文化財（平成 18 年 3 月 27 日登録） ・主屋の東側に近接して建ち、桁行 4 間半、梁間 2 間半の規模で、木造平屋建、入母屋造、棧瓦葺とする。座敷と洋間を続け、浴室を付ける。妻壁を漆喰塗りとし、堅牢なつくりで、旅館繁栄の時期に建てられ、小規模ではあるが独立した離れの旅館形式を示している。
鈴木旅館土蔵 	・国登録有形文化財（平成 18 年 3 月 27 日登録） ・敷地の北西隅に建ち、桁行 6m、梁間 4m の規模で、土蔵造 2 階建、切妻造、棧瓦葺とする。外壁を白漆喰塗りとし、鉢巻きを廻し、妻側に小さな窓を開く。南妻側に戸口を設け、一部瓦貼りとする。小規模ではあるが、昭和期の旅館の繁栄を物語る建物である。
満尾書店	
	・国登録有形文化財（平成 18 年 3 月 27 日登録） ・昭和 4 年（1929 年）頃に建てられた瓦葺 2 階建（一部 3 階建及び地下室を有する）擬洋風建築（看板建築）である。2 階の外観は、道路に面した南面と東面がモルタル洗い出しの洋館風壁面となっており、関東や関西で流行した昭和初期の典型的な商家建築が、九州の南端でも波及したことを確認できる貴重な例である。
旧外山医院	
	・国登録有形文化財（平成 18 年 3 月 27 日登録） ・北東の角地に建ち、桁行 5 間半、梁間 4 間の規模で、木造 2 階建、寄棟造、棧瓦葺とし、外壁をトタン張りとして 1・2 階ともに縦長の窓を並べる。北側に玄関をとり、1 階を全て洋室とし、2 階に和室 4 室をとる。市内には数少ない洋館の意匠をもち貴重である。
渡邊家住宅	
渡邊家住宅主屋 	・国登録有形文化財（平成 18 年 3 月 27 日登録） ・渡邊家は油津町下町の「京屋」と呼ばれた豪商で、天保 5 年から廻船問屋として事業を拡大した。明示 41 年には大阪商船会社の油津荷客扱店として関西と油津を繋ぐ主要交通機関を担った。

名称・写真	概要
渡邊家住宅酒蔵 	・国登録有形文化財（平成 18 年 3 月 27 日登録） ・主屋の南東に建ち、桁行 5 間、梁間 3 間の規模で、土蔵造平屋建、切妻造、棧瓦葺とし、北妻面西寄りに瓦葺の庇をかけ、両開きの土戸を開く。外壁を漆喰塗とし、軒裏まで波形に塗り込め、戸口上部の庇も塗り込めとする。当家の一時期の生業の跡を示す。
渡邊家住宅西蔵 	・国登録有形文化財（平成 18 年 3 月 27 日登録） ・敷地南西隅に建ち、桁行 6 間、梁間 3 間の規模で、土蔵造平屋建、切妻造、棧瓦葺とし、内部を 2 つに分け、東面にそれぞれ引き戸付きの戸口を開き、平入とする。外壁は正面を横板張りとし、他三方は漆喰塗で腰を板張りとする。家財道具や建具の収納に使われた。
渡邊家住宅小蔵 	・国登録有形文化財（平成 18 年 3 月 27 日登録） ・主屋の後方、南側に建ち、桁行 3 間半、梁間 2 間の規模で、土蔵造、平屋建、切妻造、棧瓦葺とする。妻入とし、北側に戸口を開き、西面に窓 1 箇所を開く。外壁を漆喰塗とし、軒裏まで塗り込める。薪等の収納に使われ、酒蔵と並んで建つ。
旧服部家	
旧服部家別荘 	・国登録有形文化財（平成 18 年 3 月 27 日登録） ・鉄肥の豪商服部家の別荘で、敷地外構の石垣は堀川運河の護岸を兼ねた壮大な規模となっている。主屋は明治後期に建てられており、昭和 31 年（1956 年）に増改築されている。広大な庭園も、主屋と同時期に関西の庭師田島萬之助が作庭した。
旧服部家別荘土蔵 	・国登録有形文化財（平成 18 年 3 月 27 日登録） ・西側道路に近接して、敷地北方に建ち、桁行 7 間、梁間 3 間の規模で、土蔵造平屋一部 2 階建、切妻造、棧瓦葺とする。内部を 2 室に分け、東側にそれぞれ戸口を開き、庇をかけ、引戸を付ける。牛梁に登り梁を架ける。規模は大きいが意匠的には簡素な蔵である。

表-2 登録有形文化財等の状況

名称	所有	内部公開
杉村金物本店 (主屋・倉庫)	民間	非公開
油津赤レンガ館	日南市	公開
旧河野宗泰家主屋及び炊事場	日南市	非公開
堀川橋(乙姫橋)	日南市	—
堀川運河護岸	宮崎県、民間	—
広渡川石堰堤	宮崎県	—
花峯橋	日南市	—
鈴木旅館 (本館・西本館・北離れ・東離れ・土蔵)	民間	非公開
満尾書店	民間	非公開
旧外山医院	民間	非公開
渡邊家住宅 (主屋・酒蔵・西蔵・小蔵)	民間	非公開
旧服部家別荘 (主屋・土蔵)	民間	非公開